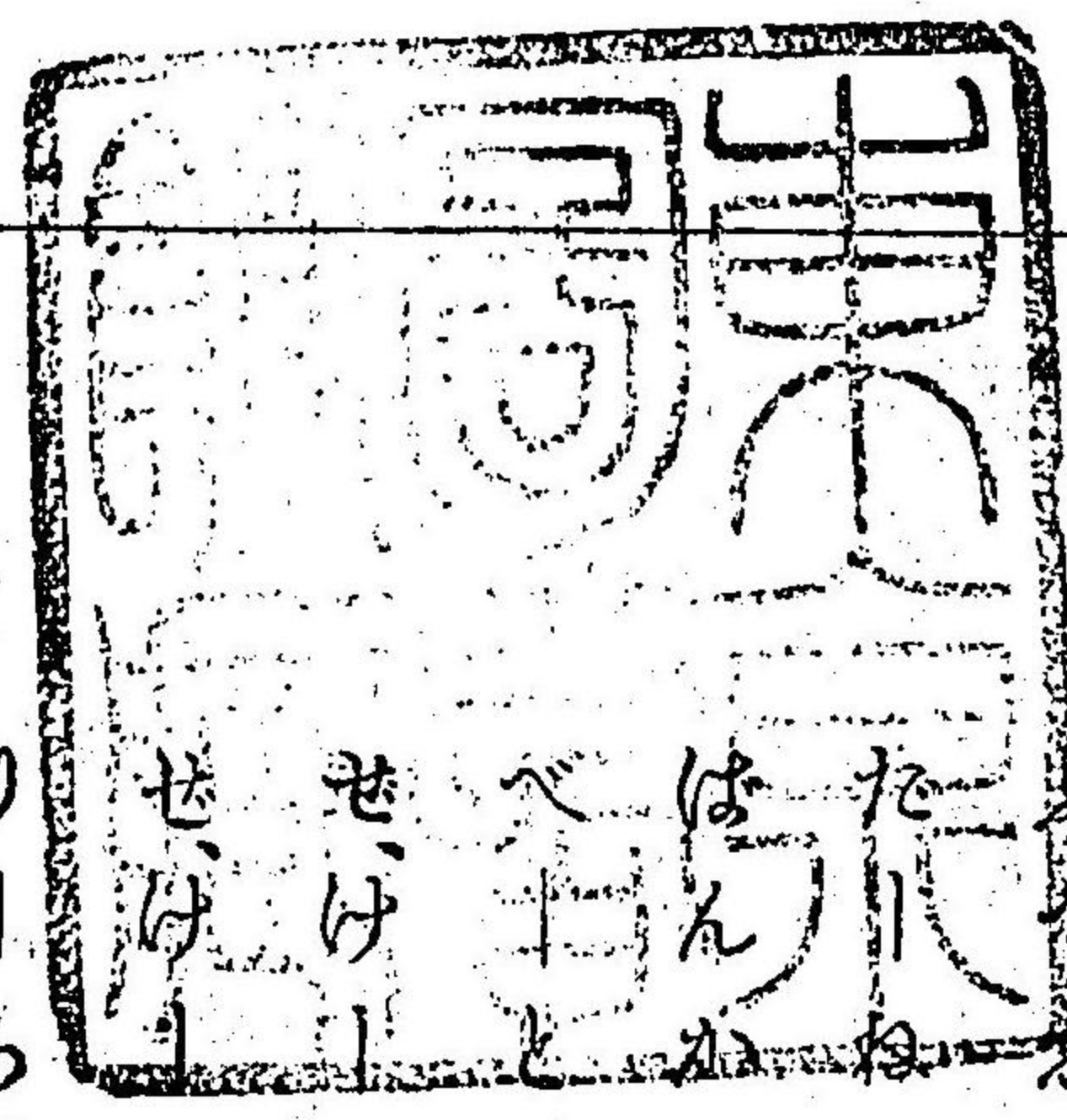


№23034/22



英吉利憲法(判決例)目次

かるびんすけーす	四丁
そまるせつとけーす	二四丁
おのゑるせけーす	三五丁
たけーるすけーす	三八丁
はんかーすけーす	四六丁
べーすけーす	五四丁
せけーすおふおつおぬー	五六丁
せけーすおふせぶんびじよつおす	五九丁
りーち對ぬー	六三丁
うるくす對うーど	六五丁
ゑんちつく對りんとん	六七丁

英吉利憲法(判決例)目次



ひる對びつぢ	七三丁
さとん對トよんすとん	七六丁
けんぶ對ねびる	八一丁
はーなちすとん對そーむ	八六丁
はとつくでーる對はんきーど	九二丁
せせりつふおぬ、とどるせつきんけーん	九五丁

英國憲法(判決例)目次完結

英吉利憲法判決例

第一回

法學士 增島六一郎 講義

余カ諸君ニ英國ノ憲法判決例ヲ講スルノ目的ハ契約法ノ爲メニ契約ノ判決例ヲ學フト同シク憲法ノコトニ關シテ英吉利訴訟ノ實例ヲ擧ケテ如何ニ之ヲ論シ如何ニ之ヲ定メタルモノナルカ法律家ノ論究シタル所ヲ講セント欲スルニ在リ而シテ其組織性質ノ利害便否如何ニ至テハ法律ノ講義ト問題ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ論スルノ限ニアラス我講義ハ既ニ政府ト人民ノ關係ヲ論シタル憲法アリ其判決例アリテ其實用如何ヲ知ルハ法律家實地ノ職業上欠クヘカラサル一ノ學科ナリ之ヲ學ンテ世ノ所謂政治家ヲ氣取ル喧嘩者流ニ倣ハントスルノ意ニアラス政治的ノ思想ヲ以テ之ヲ學フヘカラスト云フ所以ノモノハ故ナキニアラス蓋シ政治ノコトタル其所ニアラス其位ヲ有セサルノ人ナル學生ニシテ之ヲ論スルハ空談虛説ニ過キスシテ之レカ爲メ思考ヲ苦メ時日ヲ費スモ其得ル所ハ少ナシ尤モ政治ニ從事スルトキハ時ニ或ハ一時ノ快ヲ得ルコトナキニアラサルヘキモ其位

英吉利憲法(判決例)

11110116

地ニ在ラサルモノニシテ人皆ナ政治ニ是レ事トスルカ如キハ國家ノ爲メ慶賀ス
 ヘキコトニ非サルナリ夫レ然リ而シテ憲法ノ判決例ヲ講スル所以ノモノハ他ナ
 シ凡ソ法律ノ業ニ從事スルモノハ管ニ民法上一私人ト一私人ノ間ニ争アルノミ
 ナラス上下ノ間ニ亦争ノ起ルコトアリ此場合ニハ如何ニ之ヲ定ムヘキカ如何ナ
 ル理ヲ以テ之ヲ論スヘキカ豫シメ之カ用意ヲ爲シ置クハ必要有益ノ業ナルヲ以
 テナリ

今憲法ノ何モノタルヲ解説スレハ政府ト人民間ノ關係及之ヨリ生スル所ノ權利
 義務ヲ示スモノニシテ其關係ヲシテ全キヲ得セシメシカ爲メニ具フル救濟法ヲ
 論スルモノナリ尙ホ之ヲ詳言スレハ第一政府カ人民ヨリ委託セラレタル所ノ權
 力ヲ濫用シテ人民ニ害ヲ及ホサル様第二政府カ其職權ヲ行フニ當リテ人民ハ
 妄リニ之ヲ妨害セサル様ノ二點ナリ而シテ政府ノ機關ヲ一般ニ分ツトキハ立法
 行政ノ二トナリ立法トハ法律ヲ作ルヲ云ヒ行政トハ之ヲ行フヲ云フ又行政ヲ分
 テ政務ノ取扱ニ關スルモノト法律ノ實行ニ關スルモノ、二トス立法ヲ名ケテ「レ
 ぢすれちーぶ」(Legislative)ト云ヒ行政ヲ名ケテ「ぶさせさゆうちーぶ」(Executive)ト云

フ其内ニ「あどみよすれちーぶ」(Administrative)ナル政務ノミニ關シタルモノト「ぢゆ
 ぢい」(Judicative)ナル法律ノミヲ行フノ兩部アリ而シテ其前者ハ法律ヲ行
 フノ全權ヲ有シ後者ハ法律ノ疑義ニ付解釋説明シ之ヲ行フノ制裁ヲ定ルコトヲ
 司トルモノナリ

英吉利ノ「れぢすれーしよん」權ハ王家并ニ上下議院ニ屬シ此三鼎足ノ并立シテ立
 法ノコトヲ掌リ又「ぶさせさゆちーぶ」ハ王家其主トナリ議員中多數ヲ占メタル主
 務官之ニ任ス又「ぢゆぢい」ハ行政主務官ノ推舉シテ勅任シタル終身裁判
 官之ヲ掌ル本判決例ノ課目ヲ別ツ左ノ如シ

第一章 人民ノ政府ニ對スル關係ヲ論ス

第一節 人民ノ政府ニ對スル義務ヲ論ス

第二節 政府ノ人民ニ對スル義務ヲ論ス

第一項 一私人ノ自由ニ關スル保護

第二項 一私人ノ財産ニ關スル保護

第三項 王家立法權力ノ有無

第二章 人民ヨリ行政部ニ對スル所ノ關係ヲ論ス
第三章 人民ヨリ議院ニ對スル所ノ關係ヲ論ス

我講義ニ於テ論セントスル所ハ獨リ右ノ關係ヲ論シタル法律中判決例ヨリ成ルモノノミナリ其他立法議院カ時々決議シタル所ノ例ト實地行ヒ居ル所ノ慣習ヨリ其何タルヲ説明シ得ル事項少カラサルニアラサレトモ其裁判所ノ判決ニ因ルモノハ憲法中最モ大切ナル元則多キニ居ルハ英吉利判事カ其獨立ノ位地ニ居リ其法律ヲ發達スルニ非常ノ權力ヲ有シ居レルニ基ツカサルハナシ
英吉利布告ハ英吉利臣民ノ英吉利天皇陛下ニ對スル誓式ノ文言ヲ定ムルコト左ノ如シ曰ク

臣ハ天皇陛下及皇太子相續ノ諸王ニ對シ英吉利法律ノ命スル所ニ依リ誠實ニ臣民タルノ分義ヲ盡スヘキコトヲ天帝ノ惠ニ依リ茲ニ之ヲ誓ヒ奉ル此誓文タル英吉利君民ノ關係ヲ緊束スル誓ノ何モノナルヲ表彰シタルモノナリ其何タルハ「かるびんすけーと」(Calvins Case)之ヲ説明ス
英語ニ此君民ノ關係ヲ名ケテ「あれトあんび」(allegiance)ト云フ之ヲ説明スルニハ第

一其何モノナルコト第二誰カ此關係ノ責任ヲ負フコト第三誰ニ對シテ此責任ヲ負フモノナルヤ否ニアリトス
「あるびんびけーす事實ノ概畧ヲ擧ケンニ蘇格蘭カ英吉利國ト合併シタルニ當テヤト記シテ第一世王即位ノ前後ニ依リ其前後ニ「すこつとらん」ニ生レタル臣民ハ英吉利人トシテ其權利ヲ有スヘキヤ將タ外人ニ止ルヤ否ニ付爭論アリシカ其前ニ生レタル蘇格蘭土人ハ合併ノ爲メ英吉利人民トナラサリシハ疑ナキモ其後ニ生シタル者ハ内外何レノ人ヲ以テ論スヘキヤハ輿論ノ合ハサル所ナリシニ英吉利王ハ兩國ノ合併一致ヲ祈リ王位ノ合併ハ即チ是兩國ノ臣民ヲシテ相英吉利人タリ又蘇格蘭人タルヘシトノ法律ヲ得ノコトニ熱望シ委員ヲシテ之ヲ調査セシメタルニ同意ノ報告ヲ得タルカ英吉利議院ノ決議ヲ得ントシタルニ同院ハ之ヲ可トセス止ムヲ得ス英吉利裁判所ニ於テ其當否ヲ認メントシ其爲メ二件ノ裁判ヲ起シタリ

ろバると、かるびんナル幼者ニシテ合併後生レタル蘇格蘭人ノ名ヲ以テ英吉利不動産ノ所有權ト其所有權證明書類差押ニ關スルニ訴ヲ提出シタリシニ兩件トモ

第二章 人民ヨリ行政部ニ對スル所ノ關係ヲ論ス 第三章 人民ヨリ議院ニ對スル所ノ關係ヲ論ス

我講義ニ於テ論セントスル所ハ獨リ右ノ關係ヲ論シタル法律中判決例ヨリ成ルモノノミナリ其他立法議院カ時々決議シタル所ノ例ト實地行ヒ居ル所ノ慣習ヨリ其何タルヲ説明シ得ル事項少カラサルニアラサレトモ其裁判所ノ判決ニ因ルモノハ憲法中最モ大切ナル元則多キニ居ルハ英吉利判事カ其獨立ノ位地ニ居リ其法律ヲ發達スルニ非常ノ權力ヲ有シ居レルニ基ツカサルハナシ
英吉利布告ハ英吉利臣民ノ英吉利天皇陛下ニ對スル誓式ノ文言ヲ定ムルコト左ノ如シ曰ク

臣ハ天皇陛下及皇太子相續ノ諸王ニ對シ英吉利法律ノ命スル所ニ依リ誠實ニ臣民タルノ分義ヲ盡スヘキコトヲ天帝ノ惠ニ依リ茲ニ之ヲ誓ヒ奉ル此誓文タル英吉利君民ノ關係ヲ緊束スル誓ノ何モノタルヲ表彰シタルモノナリ其何タルハ「かるびんすけーと」(Calvins Case)之ヲ説明ス
英語ニ此君民ノ關係ヲ名ケテ「われトわん」(allegiance)ト云フ之ヲ説明スルニハ第

一其何モノタルコト第二誰カ此關係ノ責任ヲ負フコト第三誰ニ對シテ此責任ヲ負フモノナルヤ否ニアリトス

「あるびんすけーと」事實ノ概畧ヲ擧ケンニ蘇格蘭カ英吉利國ト合併シタルニ當テヤト「いむす第一世王即位ノ前後ニ依リ其前後ニ「すこつとらん」ニ生レタル臣民ハ英吉利人トシテ其權利ヲ有スヘキヤ將タ外人ニ止ルヤ否ニ付爭論アリシカ其前ニ生レタル蘇格蘭土人ハ合併ノ爲メ英吉利人民トナラサリシハ疑ナキモ其後ニ生シタル者ハ内外何レノ人ヲ以テ論スヘキヤハ輿論ノ合ハサル所ナリシニ英吉利王ハ兩國ノ合併一致ヲ祈リ王位ノ合併ハ即チ是兩國ノ臣民ヲシテ相英吉利人タリ又蘇格蘭人タルヘシトノ法律ヲ得ノコトニ熱望シ委員ヲシテ之ヲ調査セシメタルニ同意ノ報告ヲ得タルカ英吉利議院ノ決議ヲ得ントシタルニ同院ハ之ヲ可トセス止ムヲ得ス英吉利裁判所ニ於テ其當否ヲ認メントシ其爲メ二件ノ裁判ヲ起シタリ

ろバると、かるびんナル幼者ニシテ合併後生レタル蘇格蘭人ノ名ヲ以テ英吉利不動産ノ所有權ト其所有權証明書類差押ニ關スルニ訴ヲ提出シタリシニ兩件トモ

原告ハ王位ノ合併後ニ生レタル外國人ナルニ依リ英吉利不動産ニ關スル訴訟ヲ爲スノ權利ヲ有セサルモノナレハ英吉利ノ裁判所内ニ足テ入ルヘキモノニアラストテ豫審ノ答辯ヲ爲シタリシカ原告ハ之ニ對シテ「でまらわ」ノ申立ヲ爲シ原告ハ王位ノ合併後ニ生レタリトスルモ果シテ本件ノ訴訟權ヲ有セサルヤ否ノ争點ヲ生セシメタリシニ合議裁判ノ熟議ヲ得ンカ爲メ始審裁判所ハ之ヲ「スきすちつ」のあちるん」(Exchequer chamber)ナル裁判所ニ移シタリ

被告曰ク第一英吉利國ニ對スル「あれトあんす」アリ蘇格蘭國ニ對スル「あれトあん」アリテ二者相同シカラスト「じ」むす」第一世王ニ對スル「あれトあんす」ノ下ニ生シタル蘇格蘭人ハ英吉利國ニ對シテ外國人ナリ又英吉利王國ニ對スル「あれ」じ」あんす」以外ノ地ニ生レタル者亦外國人ナリ
又曰第二我天皇陛下ノ身上ニハ二國ノ王位アリ是レ恰カモ二王ノ存スト同シク其一ニ對スル臣民ハ他ノ王位ニ對シテ外國人ト云ハサルヲ得ヌ又各王位ニ對スル關係ハ其各王位ノミニ屬スルヲ以テ各國臣民ノ負ヘル「あれ」じ」あんす」ハ各王位ニ對シ存スルモノトス故ニ原告ハ「すこつとらん」せ」ノ王位ニ屬スル「あれ」トあん」

「す」チ」負」フ」モ」ノ」ニ」過」キ」ス」シ」テ」英」吉」利」ノ」王」位」ニ」屬」ス」ル」モ」ノ」ヨ」リ」論」ス」ル」ト」キ」ハ」外」國」人」ト」云」ハ」サ」ル」ヲ」得」ヌ」又」一」王」ニ」シ」テ」數」ケ」國」ノ」王」位」ニ」在」ス」モ」ノ」ハ」各」王」國」ニ」屬」ス」ル」「」あれ」じ」あ」ん」す」」ハ特別ニ之ヲ有セラル、モノトス

被告又曰ク英吉利法律ノ管轄外ニ生レタル臣民ハ其裁判ノ力ニ依リ英國ニ屬スル臣民ノ資格ヲ得ル能ハズ又生レナカラニ「マ」テ」英」吉」利」法」律」ノ」權」利」ヲ」得」ヘ」キ」時」代」ト」場」處」ニ」生」レ」サ」ル」モ」ノ」ハ」其」附」與」ス」ル」權」利」及」特」權」ヲ」享」受」ス」ル」コ」ト」能」ハ」ス」又」英」吉」利」法」律」ノ」管」轄」外」ニ」在」ル」人」及」物」ハ」其」法」律」ノ」裁」判」ヲ」受」ク」ヘ」キ」モ」ノ」ニ」ア」ラ」ス」原」告」ハ」蘇」格」蘭」ノ」「」ス」き」す」ち」つ」の」あ」ち」る」ん」」」ニ」生」レ」タ」ル」者」ナ」ル」カ」故」英」吉」利」法」律」ニ」依」リ」裁」判」ヲ」得」ル」ノ」特」權」ヲ」有」セ」サル」ナ」リ」

原告ハ其辯論ヲ支フル爲メ左ノ三條ヲ論スルヲ必要トシタリ
第一「あれ」じ」あ」ん」す」」ノ何モノタルコト又「あれ」じ」あ」ん」す」」ノ種類如何又「あれ」ト」あ」ん」す」」ハ何レノ處ニ生スルカ又「あれ」じ」あ」ん」す」」ハ誰ニ歸スヘキモノナルヤ又其歸スル道如何又如何ナル法律ノ力ニ依リ其生スルモノナルヤ

第二、外國人ノ何モノタルコト又其種類如何又外國人ノ自分ニ屬スル權利如何

第三、原被兩造カ主張スルヨリ生スル法律ノ便否如何

第一「あれじあんす」ノ何ノモノタルコト

右第一ノ擴張論ニ曰ク「あれトあんす」トハ臣民ヨリ君主ニ對シ負フル處ノ信實且無二ノ服從義務ニシテ各臣民皆ナ之ヲ負ハサルハナシ其生ル、ヤ否直チニ之ヲ生スルノ關係君民ノ間ニ出ツ抑モ君民ノ關係タル地主ト借地人間ノ關係ヨリ一層高等ナルモノニシテ君主ハ此服從ニ對シ臣民ヲ支配シ且之ヲ保護スルノ義務ヲ負ヒ相對ノ雙務ナリ故ニ凡ソ一國君主ノ下ニ生ル、モノハ其國民ニシテ外國人ニアラサルナリ我法律中種々ノ「あれトあんす」ヲ認ム其一ハ人生レナカラニシテ天ヨリ附與セラル、ト等シキモノナリ其二ハ國王ノ特許ニ依リ得タルモノナリ其二ハ法律ノ結果ニ依リ生スルモノニシテ外國人ノ英吉利領地内ニ住スル者ハ其住居間其住居ノ家ヲ以テ我君主ニ負ヘルモノトスル我法律ノ格言ヲ以テ定メタルモノ是ナリ其四ハ法律ノ定メタル式ヲ履ミ此關係ヲ生スルモノ是ナリ右第一類ノ「あれトあんす」ヲ名ケテ「なりもらる、あれトあんす」(Natural Allegiance)ト云フ之ニ付キ別ニ其説明及引例ヲ要セサルヘシ

右第二類ヲ名ケテ「でよせーしよん」(Denization)ト云フ分テ三トナス曰此許可ヲ得タル者ヨリ以テ其子々孫々ニ至ル迄全ク歸化シテ我國民トナレルモノ曰ク其者及男子ニ止ルカ若クハ其者ノ生涯間ヲ出テサルモノ曰特別ナル條件ヲ定メ其場合ニ於テノミ此許可ヲ受クル者

「でよせーしよん」ノ許可ヲ受クルノ道三アリ布告ノ制定ニ基クモノ特許狀ニ基クモノ其人ノ國ノ我カ爲メ敗北セラレテ我治ニ歸シタル者ニシテ凡ソ我國カ他ノ國ヲ降服セシメテ之ヲ我領地ト爲シタルトキハ其時ノ前後ヲ問ハス其國民ハ我國王ニ對シ「でよせーしよん」ノ道ニ依リ臣民ト爲リタルモノトス

右第三類ノ「あれじあんす」ヲ名ケテ「ろーある、あれじあんす」(Local Allegiance)ト云フ其例ヲ擧ケンニ曾テ英佛兩國間ニ友誼ノ存シタル時ニ當リしよるれー (Sherley) ナル佛蘭西人ハ我國人ト謀ヲ通シ共ニ反逆ノ罪ヲ犯サントシタリシニ我裁判所ハ他ノ同謀者同様公訴狀ニ依リ其罪ヲ問フタリ是其我國内ニ居レル間ハ英吉利國王保護ノ下ニ在ルヲ以テ「ろーある、あれじあんす」ノ義務ヲ負ヘルノミナラス其「ろーある、あれじあんす」タル定限ナキモノナレトモ若シ其子生ル、トキハ其英吉利人ナリ

トスルニ充分ナル服従ノ關係存スルヲ以テナリ然ラハ則チ當原告ノ如キ我國王ノ下ニ生シタル者ハ英吉利人ヲ以テ論スヘキハ勿論ナリトス凡ソ人ノ臣民ナルト否ハ其生シタル土地及ヒ氣候ノ然ラシムル處ニアラス其父母カ君主ニ忠義ヲ尽シ且ツ服従スヘキノ位地ニ在ルカ故ナリ若シ外敵カ我國ヲ襲來リ或港ヲ奪フテ其内ニ在ルニ當リ子生ルトキハ其子タル我國民ヲ以テ論スルヲ得サルハ國民服従ノ關係存スルニアラス又我國王ノ保護ヲ受クルニアラサルカ故ナリ現ニ古^レり^レさ^レべ^レす女王(Queen Elisabeth)第三十六年ノ御宇ニ於テ葡萄牙人カ我國ニ來リ右女王陛下ニ對シ反逆ノ罪ヲ犯サントシタルニ當リ裁判官ノ説ニ曰ク若シ此人ニ對シ反逆ノ罪ヲ問ハシト欲セハ其少ナクモ^レろ^レり^レる^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レヲ負^レヘル旨ヲ證明スル明セサルヘカラス又其^レあ^レち^レら^レる^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レヲ負^レヘルノ人ナル旨ヲ證明スルハ無用ナリ又若シ外敵ノ我國ヲ襲來リ我兵ノ爲メ虜ニセラル者アルモ之ニ對シ反逆ノ罪ヲ問フコトヲ得ス其未タ曾テ我國王ノ保護ヲ受ケサルノミナラス其囚虜ト我國王ノ間ニハ一モ認ムル^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レノ關係存セサレハナリト又^レへ^レん^レり

「第七世王(Henry VII)ノ時ニ當リ^レあ^レん^レす^レ」第四世(Edward IV)ノ子ナリト僞リ我王

位ヲ奪ハントシタル外國人アリシカ^レこ^レん^レも^レん^レろ^レ」裁判所ノ判事裁判ヲ與ヘテ曰ク被告人ハ^レこ^レん^レも^レん^レろ^レ」裁判所ノ審問ヲ受クヘキモノニアラス軍法ニ基キ特別ノ委任ヲ受ケタル裁判官ニ於テ之ヲ所分スヘキモノナリト

要スルニ本件ノ爲メ論定スヘキノ^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レハ我國民カ生レナカラニ有スル所ノ^レな^レち^レゆ^レら^レる^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レナリトス若シ夫レ原告人ノ父ハ^レで^レよ^レせ^レし^レよ^レん^レ」ノ道ニ依リタル^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レヲ負フニ止ルモノニシテ英吉利國內ニ於テ子々孫々ニ讓渡シ得ヘキ性質ヲ有スル所ノ所有權ノ存在スル不動産ヲ買取リタル後死亡スルコトアルモ其不動産ハ之ヲ其子ニ讓渡スコトヲ得サルハ是我法律ノ定則ナリトス何トナレハ我議院カ頒布シタル布告ニ依ルニアラスハ我國王ト雖モ外國人ニ^レな^レち^レゆ^レら^レる^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レノ關係ヲ負ヘルモノト同様ナル權利ヲ與フルコト能ハサルヲ以テ我法律ノ規定シタル外ニ出テ妄リニ我不動産ニ關スル子孫讓渡ノ權利ヲ附與スルコトヲ得サルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナレハナリ

次ニ^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レハ何人ニ歸スヘキモノナルヤヲ論シテ曰英吉利臣民タルモノハ其負ヘル所^レあれ^レト^レあ^レん^レす^レニ依リ國ノ内外ヲ問ハス君王ニ從フテ軍役ニ服セ

サルヘカラス故ニ若シ我領地ノ一部ヲ襲撃スル者アルトキハ君王ハ其見込ヲ以テ我領地ノ他ノ各部ヨリ其臣民ヲ驅テ襲撃ノ地ニ向ハシムルコトヲ得ヘシ若シ夫レ「あれトあんす」ハ「えんぐらんど」又ハ「蘇格蘭」ノ一部ニ限ルモノトモハ君王ハ此命令ヲ發スルヲ得サルナリ而シテ我歴史ヲ按スルニ現ニ此君王ノ特權ヲ證明スヘキ事例少カラス以テ見ルヘシ「あれトあんす」ハ獨リ君王ノミニ歸スヘキモノコシテ我領地ノ一部ニ限り存スルモノニアラサルコトヲ

又「あれトあんす」ハ君王ノ身自ラニ歸スヘキカ將タ其王タルノ位ニ歸スヘキモノナルカヲ論シテ曰ク素ヨリ一人ノ身ニシテ英吉利ノ王トナリ蘇格蘭ノ王トナルニ於テハ其身一ナルモ其位ハ一ヨリ多シ然レトモ「あれトあんす」ハ其身ニ屬スルコト疑ナキモノトス何トナレハ法律ハ臣民カ君王ニ對シテ誓フ所「あれトあんす」ハ其身ニ對シテ誓フモノト推測スルヲ以テナリ又君王ノ死ヲ圖ラントスル反逆罪ノ如キモ素ヨリ其君王ノ身ニ對スルモノニシテ其公訴狀ハ常ニ此意ヲ表シタル文言ヲ以テセリ又我君王カ我君王タルノ位ニ在スハ其正統ナル血縁ノ子孫ナルカ故ナリ我歴史上之ヲ証明スルノ事例少カラサレトモ茲ニ之ヲ引用スルヲ

要セサルヘシト

又如何ナル法律ニ依リ「あれトあんす」ハ君王ノ身ニ歸スルモノナリヤ否ヤヲ論シテ曰是我法律ノ一部ナル自然法ニ基キタルモノニシテ其來ルヤ我人定ニ基ク所ノ法律ヨリ古キモノトス彼ノ犯罪者ハ其罪ニ服スルヤ否我君王ノ實施セル人定ノ法律ニ違背シタルモノナルヲ以テ其保護ヲ受クヘキ位地ニ居ラサルモノナリト雖モ君王カ大赦等ノ令ヲ行フ所以ノモノハ其犯罪者ハ尙ホ君王ニ對シ自然法ニ依テ「あれトあんす」ヲ負擔スルニ由リ仍ホ其君王ノ保護ヲ受クヘキ關係存スレハナリト

第二英吉利法律ノ所謂「ありいんす」外國人トハ如何ナルモノナルカヲ論シテ曰「ありいん」トハ我君王ニ對セス他ノ君王ニ對スル「あれトあんす」ノ下ニ於テ生レタル者ニシテ我英吉利ノ土地不動産ニ就テハ一切我法律ノ保護ヲ受クルノ權利ヲ有セサル者ヲ云フ故ニ凡ソ人ハ外國人ナルカ又ハ內國人ナラサルヲ得ス而シテ外國人ニ友民敵民ノ二種アリ又敵民ニ一期限リノモノアリ若クハ特許ヲ得タルモノアリ內國人ニ生レナカラナルモノアリ若クハ其資格ヲ附與セラレタル者アリ

今右各種ノ資格ヲ略示センニ外國友民ハ我英吉利人ト同シク動産ニ就テ保護與シ商賣シ其他正當ノ手續ニ依リ其權利ヲ享有シ且之ニ關スル裁判ノ保護ヲ受ク
ルヲ得ヘシト雖モ不動産ニ就テハ前文既ニ掲ケタル如ク唯我國內ニ住居スル爲メノ外ハ一モ之ニ關スル權利ヲ享有スルヲ得サルナリ而シテ若シ敵民タルコトアルトキハ全ク我法律ノ附與スル所ノ保護ヲ剝奪セラレ毫モ其權利ヲ有スルヲ得ス右ニ掲ケタル特許ヲ得タル敵民トハ我君主ノ許可ヲ得テ一時我國ニ滞在スル者ヲ云フ

是ヨリ生レナカラ我臣民タルヘキ者ノ要件ヲ舉ゲンニ

第一 其父母ハ現ニ我君王ニ對シ「あれトあんす」ヲ負ヘルノ時ニ於テ生レタルモノナラサルヘカラス

第二 其出生ノ地ハ我英吉利領地内タルヲ要ス但我領地外ニ於ケルモ其父母カ我君王ニ對シ「あれトあんす」ヲ負ヘル場合ニ於テハ尙ホ其子ハ内國人タルヲ失ハサルヘク又縱令我領地内ニアルモ其「あれトあんす」ヲ負ハサルモノナルトキハ其子ハ内國人タルヲ得サルヘシ是即チ我英吉利公使カ外國ニ於テ

子ヲ舉ケタル場合ト外敵カ我國內ニ於テ子ヲ舉ケタル場合ニ適合スルモノナリ

第三 其父母カ現ニ我國王ニ對シ「あれトあんす」ヲ負ヘルノ時ニ於テ生シタル者ナラサルヘカラス

第三若シ原告人ヲ以テ外國人ナリト判決セラレ、ニ於テハ之ヨリ生スルノ不便ノ大ナルコトヲ舉ケタルノ議論アレトモ茲ニ之ヲ畧ス

以上ノ辯論ニ對スル裁判ニ曰原告及被告ノ提出セル意見ヲ熟考スルニ本件被告ハ原告ノ發シタル訴訟ノ令狀ニ對シ答辯ヲ拒ムコトヲ得サルモノナリト右ハ「かゝるびんす」ノ訴訟ニ關シ裁判所ガ判決シテ原告ノ提出シタル理由ヲ採用セ
ル顛末ノ概要ナリ是ヨリ此判決アリタル爲メ其結果トシテ生スル所ノモノヲ略示センニ

曰「あれトあんす」トハ君王ト臣民トヲ結束スル所ノ關係ニシテ臣民カ君王ニ對シ負ヘル所ノ眞實忠義ノ服従ヲ云フ而シテ此服従ノ義務ヲ負ヘル所以ノモノハ之ニ對シテ君王ノ保護ヲ受クル所以ニシテ此服従ト保護トハ上下相對スル相互ノ

關係ナリトス

曰「あれじわんす」ハ我國內ニ生レタル所ノ臣民カ其出生スルヤ否法律ノ作用ニ依リ直チニ其臣民ヨリ我君王ニ對シテ負フ所ノ關係ナリト

曰「わんじわんす」ノ關係ハ我君王カ何レノ場所ニ在スナ間ハス造次頓沛ノ間ト雖モ君王ノ身ヲ離レサルモノトス我臣民タル者之ヲ免ル、ヲ得ス又之ヲ捨ツルヲ得ス終身其身ニ負ヘル所ノモノナリ茲ヲ以テ我法律ハ我臣民カ外國君王ノ爲ノ其軍役ニ服シ我國ヲ襲フノ兵士タルコトヲ許サスシテ之ヲ反逆罪ニ所スル所以ナリ

曰君王ノ即位スルヤ否我臣民ヨリ直チニ此關係ヲ生スルモノトス

曰「あれじわんす」ノ關係ハ分離スルヲ得サルモノニシテ唯君王ノ一身ニ屬スルノ

曰其何人タルニ拘ラス我領地内ニ於テ我君王ノ保護ヲ受クル者ノ子ハ其出生スルヤ否直チニ此責任ヲ負フモノトス
是ヨリ此關係ヲ消滅スル場合ヲ論ゼンニ

曰君王ノ位ヲ退キタルトキ王位繼承ノ法ヲ改メタルカ故王位ヲ變シタルトキ

曰我領地ノ一部獨立國トナリタルトキ但一時ノ内乱ニ基クモノト承諾ノ上獨立シタルモノトノ區別アルヘシ

曰我臣民カ他ノ國ノ王位ニ即クコトアルトキハ爲メニ其我君王ニ對スル關係ヲ變スルコトアルヘシ

曰千八百七十年頒布「ちちゆらりせーしよん、あくど」(The Naturalization Act of 1870)ヲ以テ規定シタル場合是ナリ

次ニ海上ニ於テ生レタル人ノ身分ニ就キ論述センニ英吉利船舶ハ其所有主ノ公私如何ヲ問ハス總テ恰モ其英吉利ノ土地ナルカ如ク見做シ我法律ノ管轄ニ屬スルモノナルヲ以テ船舶ノ上ニ生レタル者ハ皆我臣民ナリトス

此他「なちゆらりせーしよん」ノ外「でにせーしよん」(Denization)ト云ヘル手續ニ依リ外國人カ内國人ノ資格ヲ得ル場合アリテ全ク其資格ヲ得ルモノ又ハ其幾分ヲ得ルモノ若クハ特別ナル條件ヲ具備スル場合ニ限リテ之ヲ得ルモノアリ而シテ之ヲ得ルノ道ニアリ君王ノ特許狀ニ依ルモノ及我有ニ歸シタルカ爲メ其國民カ此

資格ヲ得ルモノ是ナリ凡ソ我英吉利國カ他國ヲ征服スルヤ否其國民ハ直チニ我臣民トナルモノナリ曾テ「ろーど」まんすふゆーどハ之ニ就テ三則ヲ掲ケタリ」曰我軍ニ服シタル國ハ直チニ我君王ノ屬國トナルヲ以テ其立法權ハ全ク我國ニ屬スルモノトス

曰其國ノ人民カ征服セラレテ我君王ノ保護ヲ受クルヤ否直チニ我臣民トナルヲ以テ敵民又ハ外國人ノ位地ヲ脱スルモノナリ

曰斯ノ如ク征服セラレタル國ノ法律ハ我君王カ之ヲ變更スル迄ハ依然其効力ヲ失ハサルモノトス但其効力ヲ存スヘキ法律ハ別ニ我法律ノ原則ニ齟齬シ若クハ抵觸セサルモノニ限ル

右ノ如ク新タニ英國カ征服シタル國民ノ爲メ法律ヲ制定シ若クハ之ヲ變更スルノ權力ハ獨リ我君王ニ屬シ我議院ノ之ニ干涉スルヲ得サルモノナリ然レトモ斯ノ如ク我君主カ増補シ若クハ變更シ得ル所ノ法律ハ尙ホ我法律カ豫テ認メタル所ノ原則ニ符合シタルモノナラサルヘカラス

獨リ征服ノミナラス新タニ土地ヲ獲得シタルカ若クハ之ヲ讓受ケタルカ爲メ新

タニ我領地ノ増加スルコトアルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ其國ノ人民ヲシテ如何ナル法律ヲ遵奉セシムヘキモノナルヲ示スハ必要ナリトス若シ新タニ發見シタルノ國ナルトキハ我英吉利人民ハ自國ノ法律ヲ携ヘ行クモノナルヲ以テ其國ノ人民ハ尙ホ英吉利法律ノ保護ヲ受クヘキモノトス又我領地ノ獨立國トナリ若クハ他國ニ移轉シタルトキハ其條約ニ依テ其獨立國又ハ讓渡サレタル國ノ臣民ノ遵奉スヘキ法律ヲ定ムルヲ常トス彼ノ千七百八十三年米國ノ獨立セルニ方リ英米兩國ハ條約ヲ締結シ米國政府ニ屬セント欲スル者ハ英吉利王ニ對スルノ「あれじあんす」ヲ免ル、ヲ得ヘシ若シ其示シタル期限ニ於テ其何レノ政府ニ服從セントスルカヲ決示セサル者ハ依然トシテ英吉利王ニ對スルノ「あれじあんす」ヲ免ル、ヲ得ストナシタルカ如キ是ナリ

我新領地ニ對シ英吉利法律ヲ移スニ方リ考察スヘキハ其法律タルヤ獨リ我英吉利島内ニ特別ナル理由アリテ制定セラレタルモノナリヤ否ヤノ點ナリ

是ヨリ我英吉利國ニ臨時滞在スル外國人ニシテ「あちゆらりせーしよん」若クハ「でよせーしよん」ノ方法ニ依テ特許ヲ得サル者カ法律上享有スル所ノ資格ヲ論セン

ニ外國友民タルモノハ其滞在中我君王ニ對シ其時限り臨時ノ「あれトあん」ヲ負
 フモノナレハ若シ内國人カ犯シタリトセハ反逆罪トシテ論スヘキ罪ヲ犯シタルト
 キハ英吉利法律ハ反逆者トシテ之ヲ論スルカ故ニ其間我法律ヨリ受クル所ノ保
 護ハ内國人ト一モ異ナル所ナシ其我國ニ滞在スル間ハ悉ク我法律ニ服従スルノ
 義務ヲ負擔スルモノトス又外國敵民ニシテ臨時君王ノ特別ナル保護ニ依リ我國
 ニ滞在スルモノト雖モ右ノ外國友民ト同シク臨時我法律ヲ受クルモノトス若シ
 此保護ニ依リ我國ニ滞在スル外國敵民カ去テ其國ニ歸リ我國ニ反スルノ行爲ア
 ルトキハ我法律ハ其家族并ニ財産ヲ論スルニ外國敵民ノ資格及財産ヲ以テスヘ
 シ

我英吉利國古來ノ法律ニ依ルトキハ外國人ハ英國ノ不動産ニ關シ毫モ所有權利
 ナ享有スルコトヲ得サルモノナレトモ近來ノ法律ニ依リ廿一年ノ期限ヲ超ヘサ
 ルモノナレハ我不動產ヲ所有スルコトヲ得ルモノトセリ進ンテ千八百七十年ノ「
 ちゆらりせーしよん、あくと」ニ依リ動產ト不動産トヲ問ハス外國友民ハ内國人同様
 之ヲ所有シ我法律ノ保護ヲ受クルヲ得ルモノトシタリ唯今日其權利ニ制限アル

ハ我官吏トナルヲ得ス國會議員及其他ノ議員トナルヲ得ス又英吉利旗下ニ屬ス
 ル船舶ノ所有者タルヲ得サルコアルノミ

斯ノ如ク内國人タルト外國人タルトヲ問ハス前文ニ示シタル所ノ區別ニ依リ我
 法律ノ保護ヲ受ケ我君王ニ對シ「あれトあん」ノ責任ヲ負ヘルハ同一ナリトス而
 シテ斯ノ如ク我君王及其法律ニ對シ服従ノ關係ヲ有スル者ハ我法律ヲ知ラサル
 ヘカラス又之ヲ守ラサルヘカラス又我君王カ其裁判ニ依リ下シタル所ノ命令ヲ
 遵奉セサルヘカラサルナリ而シテ我臣民ハ我領地内ノ土地ヲ有スルモノニシテ
 我君王ハ土地ノ無上ナル總領主ナレハ其間亦土地所有主ト土地總領主トノ關係
 存在スルモノトス

以上ハ君民ノ關係ヲ示シタル法律ノ概畧ヲ講セントスルニ出テタルモノニシテ
 是即チ我大日本帝國憲法ノ第十八條以下第三十二條ニ於テ殊ニ規定シタル臣民
 ノ權利義務ヲ存セシムル爲メ其基礎トナルヘキ關係ヲ説明スルノ例トスルニ足
 ルヘキモノナリ

是ヨリ君王カ臣民ニ對スルノ責任ヲ説明スヘシ是我大日本帝國憲法第二十三條

ノ示ス所ニ匹敵スルモノナリ

第二節 政府ノ人民ニ對スル義務ヲ論ス

英國憲法ハ英國君王カ英吉利臣民ノ利益ノ爲メニ盡スヘキ義務ヲ掲ケタリ此義務ヲ盡サンカ爲メニ英國君王ハ其臣民ト商議ヲ盡シテ萬事ヲ統治スヘキモノトス之ニ對シ臣人コヨリ特待セラレ種々ノ特權及相當ノ手當ヲ附與セラル、モノトス而シテ英國君王ノ義務責任ノ如何ヲ知ラント欲セハ其即位ノ宣誓式ニ依ルヲ以テ捷徑ナリトス其宣誓式ニ曰ク立法議院ニ於テ議決シタル布告及英國慣習法ニ從ヒ英國臣民及英國ノ領地ヲ支配シ且此法律ニ從テ裁判ヲ下シ相當ノ保護救正ヲ與フヘシ抑此文言タルヤ單ニ英國君王カ其臣民ニ對シテ負擔スヘキ責任ヲ示スノミニアラス加フルニ英人其臣民其君王ヨリ享有スル所ノ固有權利ノ何タルヤヲモ説明スルモノナリ其詳細ノ事項ハ左ノ如シ(1) Magdalen 始メトシ其以後ノ布告ニ就キ之ヲ探究セサルヲ得ス今右ニ掲ケタル宣誓式ヨリ觀察スルトキハ英國君王ノ英國臣民ニ對スル關係ハ之ヲ三個ニ區別セサルヲ得サルナリ左ノ如シ

三三

五二

(第一)英國臣民ハ其身體ノ自由ヲ享有ス此權利ヲ保有セシムルニ陪審官ノ裁判及 (Trial by jury) 「へびやす、こいぶす」 (Habeas Corpus) ノ法律ヲ以テス

(第二)英國臣民ハ其財產ヲ所有スルノ自由ヲ享有ス

(第三)英國君王ハ縱マ、ニ現行法律ヲ増補變更スルヲ得ス

是ヨリ右ノ三個ニ就キ逐次講述スル所アルヘシ

一私人ノ自由ニ關スル保護

(第一)英國臣民ハ其身體ノ自由ヲ享有ス之ヲ保有セシムルニ陪審裁判及「へびやす、こいぶす」ノ法律ヲ以テス

英國臣民ハ如何ナル身體ノ自由ヲ享有スルヤニ就テハ三個ノ判決例ヲ以テ之ヲ説明スルヲ得ヘシ其第一ノ判決例ハ「サマセツト」(Somerset's case) ニシテ英吉利法律ハ奴隸ノ制度ヲ認容セザルコトヲ判決シタルモノナリ第二ノ判決例ハ「ブッシュ」(Bushell's case) ニシテ英國人民カ陪審裁判ヲ受クヘキ權利ハ決シテ之ヲ侵スヘカラス陪審官ハ證據ニ反シ若クハ判事ノ教示ニ反スル回答ヲナスモ爲メニ其過ヲ罰セラル、コトナシトノ主意ヲ判決シタルモノナリ第三ノ判

決例ハだわねるすげーす (Daniell's case) ニシテ英國臣民ニシテ不法ニ其身体ノ自由ヲ妨害セラル、トキハ裁判ヲ要セス畧式手續ヲ以テ之ヲ解放セラル、ヲ得ルトノ主旨ヲ判決シタルモノナリ

本節ニ於テ論スル所ハ大日本帝國憲法第二章ニ定ムル臣民ノ權理義務ニ必適スル英吉利法律カ認ムル所ノモノヲ其判決例ニヨリ之ヲ説明セントス而シテ第二章ノ内殊ニ第二十二條乃至二十九條ノ定メタル所ヲ説明スルノ諸例ヲ順次講スヘシ

第一我憲法ノ第二十二條ニ匹適スル英吉利法律カ附與スル居住及移轉ノ自由ト之ヲ保護スル所果シテ如何ヲ説明スルモノニシテ其判決例左ノ如シ

そざるせつどげーす (Somerset's case)

千七百七十一年ニ於テ未タ米國ノ獨立セサル時ニ方リ英國ノ殖民地ナル米國ノ一部ぼるじにや州ハ以前ヨリ奴隸ノ制度ヲ認容セリ然ルニそちゆわーとナル紳士アリ其奴隸さざるせつとヲ携へ英國ノ倫敦ニ來リシカさざるせつどハ脱走シタルヨリ或船ニ乗セトやまいり送り之ヲ賣却セン爲メ倫敦ニ碇泊中甲板土ニ鐵

鎖ヲ以テさざるせつとヲ監禁セリトノ由ニテ「へびやすこ」ハ「す」ノ手續ヲ出願スルモノアルニヨリさざるせつとヲ提出シテ之ヲ監禁シタルノ理由ヲ答辯セシメシニ船長某ハ奴隸さざるせつとハそちゆわーとノ所有品ニシテハ米國へ輸送スル爲メ之ヲ留置スル旨ヲ回答シ且すちゆわーとハ曾テ之ヲ得るじにやニ於テ買得シテ英國へ携へ來リタルニ逃レテ主人ノ命ヲ聞カサルニヨリ之ヲじやまいの島へ移シテ賣却セン爲メニ監禁スルモノナル旨ヲ證明セリ「とまんすふひ」ル「ど」ハ更ラニ對審ノ日ヲ定メ訊問ヲ開キシニさざるせつとノ代理人ハ論シテ曰ク本件ノ問題タルヤ身体ノ自由ニ關スルモノナルカ故ニ重要ナル事件ナリ先ツ第一ニすちゆわーとカさざるせつとノ身體ニ對シテ主張スル所ノ權利如何ヲ論シ第二假リニ其主張スル權利アリトスルモ奴隸ヲ捕へテ恣ニ之ヲ乘船セシメ以テ英國外ニ誘フハ適法ナリヤ否ヤヲ論セントス此二點ノ内孰レノ點ニセヨ裁判所カ我論辯ヲ採用スルアラハさざるせつとハ自由ノ人トナルノ幸福ヲ得ヘシ第一すちゆわーとノさざるせつとニ對シ有スル權理ヲ支ヘントスルノ辯護ハ我英吉利國內ニ起リタルニアラス外國ニ起リタルモノニシテ其ノ斯ク起リタル權

理ハ尙ホ續キテ存シ英吉利法律ノ保護ヲ受クヘキモノナリト云フニ在リ其然ラ
 カルノ理由ヲ論辯センニハ先ツ往昔ヨリ存シタル奴隸ノ沿革ヨリ論ヲ起スヘシ
 奴隸ノ語ヲ以稱スル所ノ關係ニ種々アリト雖トモ我論辯ノ爲メ此名ヲ以テ稱ス
 ルモノハ一個ノ臣民ト臣民カ他ノ臣民ノ身体ニ對シ無上ナル制御ノ權力ヲ有ス
 ル使役方ノ最モ逆シテ最下等ノ道ヲ以テ使役スル所ノ制度ナリ今該制度ノ固
 有ナル性質ヲ擧ケンニ奴隸カ主人ニ對シテ負ヘル所ノ奉仕ノ義務ニ期限極リナ
 シ此關係ヲ說クノ權理ハ獨リ主人ノ擇ム所ニ任シ主人カ之レヲ折檻スルニ主人
 ハ無上ノ權力ヲ有シ生命ヲ與奪スルハ獨リ其擇ム所ニ任シ奴隸ハ財產ヲ享有ス
 ルコト能ハス其勞役スルハ獨リ主人ノ爲メニシテ其依テ以テ得タル所ノ財產及
 其他ノ權理ハ獨リ主人ニ屬シ其身分ハ子々孫々傳テ變スルコトナキ是最下等
 ナル奴隸制度ヲ組成スルノ條件ニシテ未開ノ往昔ニ在テ萬國皆ナ之ヲ存シタリ
 人其制度ノ害ヲ知り之ヲ廢シ若シクハ壓滅セントシタルハ僅ニ近世ノコトナル
 ノミ次ニ其害ヲ察スルニ主從共ニ良心ヲ害ヒ上下ヲ愛セス下上ヲ敬セス殘忍限
 リナク上下共ニ相親ムノ力ヲ失ヒ其餘勢タル奴隸ノ存スル社會ハ良民ニ乏シク

乱民多キノ結果ヲ生スルニ至ル此種ノ制度タルヤ曾テ廣ク萬國ニ行ハレタルニ
 關ラス近世ニ到リ諸國皆之ヲ壓滅スルニ盡力シ我英吉利ノ如キハ殊ニ與テ力ア
 ルモノナリ
 奴隸ノ制タル夫レ斯ノ如ク往昔ノ現象ニ屬シ英吉利法律ノ如キ人ノ自由ヲ奪フ
 ヨリシテ未ダ曾テ其制度ヲ認許シタルコトナク其認許スル「ビレねーぢ」(Villinage)
 ノ如キハ全ク之ト異ナリ而シテ「ビレねーぢ」ノ制度ヲ案スルニ英吉利法律ハ其跡
 ナ絶タンコトヲ計リ其所有權ヲ得ント欲スルモノヲシテ其擧證ノ責任ヲ負ハシ
 メタルカ今ヤ「ビレねーぢ」(Villain)ノ子孫其跡ヲ絶テ此法律ヲ適用スルノ所ナキニ到ラ
 シメタリ若シ之ヲ行ハント欲セハ只ク先ツ往昔「ビレねーぢ」ノ子孫ナルコトヲ證明ス
 ルニ非ンハ不可ナリ「ビレねーぢ」ノ制度ハ他ノ奴隸制度ノ如ク虜ニセラレタルニ
 出ルニアラス若シクハ契約ヲ以テ創始シタルニアラス若シクハ罪惡ノ刑トシテ
 科セラレタルニアラスシテ必スヤ生レナカテニシテ「ビレねーぢ」ノ子孫ナルモノナラ
 サル可カラズ今ヤ此「ビレねーぢ」ノ子孫絶ヘタルヲ以テ此法律モ亦用ナク本件ノ奴隸
 ハ全ク之ト異ナルヲ以テ我法律ヲシテ之ヲ認許セシメシニハ太古ノ規則ニ依ル

ヲ得ス獨リ新ナル法律ヲ以テ之ヲ認許スルヨリ他ニ道ナキナリ而シテ我英吉利ノ如キ外國ト商業ノ交通繁ク東西相通セサルコトナキニアラサレトモ内外人共ニ未ダ曾テ奴隸ヲ輸入シ來リタルコトナシ是ヲ以テ英吉利法律カ新ニ奴隸ノ制度ヲ輸入スルコトヲ認許セサルノ證トナスニ足レリ

次ニ新ニ奴隸ノ制度ヲ輸入スヘカラサルコトハ我契約法ノ規則ニ由リ之ヲ證スルヲ得之ヲ案スルニ英吉利人ハ契約ニ由リ自カラ奴隸トナルコトヲ得ス法律ノ許認スル最上點ハ一生仕事スルノ契約ニ過シルコトヲ得ス彼ノ奴隸制度ノ特性ナル任使セラル、モノ、財産權利ハ主人ノ財産權利ナリ其主人ノ任使スルノ權利ハ之ヲ他人ニ賣買スルヲ得ヘク又之ヲ子孫ニ相續セシムヘシ主人ハ隨意ニ其任使スルモノヲ打擲折檻スルヲ得ルトスル等ノ如キハ縱令之ヲ結約シタルコトアリトスルモ英吉利法律ハ之ヲ認許セサルヘシ且終身任使セラルヘシトノ契約ノ如キハ實地存スルコト少ナク其之レアルハ海陸軍人ノ場合ニ限り而シテ其場合ハ名ハ海陸軍人カ任使セラレシコトヲ約シタルニ出ツルモ其實布告ニ由リ定メタル處アルニ出テサルハナシ是モ亦タ以テすちゆあるとノ本件ニ於テ一モ理

五七

七

由チ有セサルモノナルコトヲ知ルニ足ルヘシ今之ヲ判決例ニ徵スルニすみす對

ぶらうん (Smith v. Braving) ノ如キ現ニばるる (Pouffe J.) 及 99 (Holt C.J.) 兩判事ノ云ヘル處ヲ以テスルニ我國ハ往昔ヨリ存セシびれんノ制度ヲ認ムルモ他ノ奴隸制度ヲ認ムルコトナシにける奴隸ノ如キハ其英吉利ノ地ヲ踏ムヤ否直ニ自由ヲ得若シ英吉利島内ニ於テ主人カ逆使スルコトアルトキハ「へびあす、こいぶす」令狀ニ依リ之ヲ救正スルコト得ルトハ他一件ニ於テの「ちんくどん」(Nothington Tr.) 判事ノ言ヘル處ナリ又敵國カ我兵ヲ虜ニシ奴隸トシテ之ヲ役使スルコトアラハ我モ亦敵ヨリ虜ニシタル者ヲ役使シテ之ニ應スルコトヲ得ルトハ萬國公法ノ許ス所ナルカ如キモ英吉利法律中未ダ曾テ之ヲ我君主ノ特權トシテ許シタルノ規則アルヲ看ス已ニコノ規則ナク新種ノ奴隸ヲ許シタルノ例ナシトセハ現今奴隸制度ノ我法律ニ認許セラレサルモノナルヤ知ルヘシ又亞米利加ニ於テハ我國人カ「にぐろ」奴隸ヲ許シタルノ法律アレトモ是其亞米利加ニ限り實地ノ必要アルヲ認メタルニ出ツルモノニ過キス我英國内ニ之ヲ使用スルヲ必要ナリトスヘキ理由存セス我法律何クソノ之ヲ我島内ニ移スコトヲ許サンヤ又本訴ノ奴隸ニ關スル所有

權ハ亞米利加法律ノ管下ニ初マリタルモノナルカ故夫ノれつきするし (Locat)ノ規則ナル凡ソ取引ノ効力ヲ論スルニハ之ヲ取引シタル國ノ法律ヲ以テセサル可カラストノ規則ヲ適用シテ之ヲ論セサルヘカラス若シ然リトセンカ英吉利法律ハ本件ノ奴隸ヲ認許セサルヘカラスカ如キモ元來此規則タル文意通り廣ク之ヲ行ハサルモノナルハ各國法律ノ認ムル表準ナリ上來已ニ論シタルカ如ク奴隸制度ハ我法律ノ禁スル處ニシテ其之ヲ禁スルハ其制ノ我國ニ必要ナラサルノミナラス其害國家ノ安危ニ係カルモノナリトスルヲ以テナリ若シ此規則ヲ本件ノ場合ニ適用スモノトセンカ我法律ノ趣意ニ反スルモノナルヲ以テ是右ノ表準以外ニ出テタルモノト謂ハサルヲ得ス右ノ如ク英吉利法律ハ奴隸制度ヲ認許セサルニ由リ奴隸ハ一度此地ニ足テ容ル、ヤ否全ク其天有ノ權利ヲ恢復シ自由ノ身トナリタルモノトス

第二前段ノ如ク奴隸制度ノ不法ナル上いすちゆあると氏カさまるせつとニ對シ行フヘキノ權利アルハ獨リ我法律ノ許ス處ノモノナラサルヘカラス而シテ我契約法ヲ案スルニ彼ノ航海見習生ノ如キ法律ノ殊ニ許シテ海外ニ於テ使役セラルヘ

キコトヲ約スルヲ得ルモノ、外ハ人漫リニ己レノ權利ヲ制限シ他ノ契約相手ノ欲スル處ニ從ヒ專ニ英吉利國外ニ移サル、契約ヲ爲スカ如キハ我法律ノ許サル處ナルヲ以テ到底すちゆあると氏ノ權利存セサルモノトス殊ニヘびあすこト云す (Haleas Corpus) 條例モ航海見習生ノ場合ヲ例外トシテ之ヲ定メタリ右ノ理由ナルヲ以テ本件ノヘびあす、こト云す (令狀ニ對スル答辯ハ一モ理由アラサルモノトス

ろーどマンすふいんと (Lord Mansfield) 氏ハ判決ヲ下シテ日本件ノ問題ハ監禁ノ理由トスル所充分ナルヤ否ニ在リテ若シ充分ナリトセハ「あぐる」ハ之ヲ主人ニ引渡サ、ルヘカラス之ニ反シテ其理由不充分ナルニ於テハ之ヲ解禁セサルヘカラス而シテすちゆあるとノ理由トスル處ハさまるせつとハ其奴隸ナルカ命令ヲ奉セズシテ脱送セントスルニ因リ主人タルノ權利ヲ行ヒ之ヲ賣ランカ爲メ監禁スルモノナリト云フニ在レトモ奴隸制度ノ事タル其害實ニ甚ダシキモノニシテ之ヲシテ我法律ノ保護ヲ受ケシメンニハ其明文ニ依リ認許シタルモノナラサル可カラサレトモ其明文存スル事ナシ茲ヲ以テさまるせつとハ直ニ其自由ヲ得セシム

右ノ如ク凡ク奴隷トシテ英國へ來リ漫リニ監禁セラレ、モノハへびやす、こゝ
 ずノ令狀ニ依リ自由ヲ得ルノ權利存スルモノトス
 然リト雖トモ右判決例ノ判示シタル處タル何レノ場合ニ於テモ制限ナク之ヲ適
 用スヘキモノニアラス現ニ或ル英吉利人カ奴隷ノ制度ヲ許シタル國ニ於テ所有
 セシ奴隷ヲ携ヘテ英國ニ來リ其帶留中奴隷ニ矢張り奴隷トシテ使役セラレタル
 カ後主人ノ住國ニ歸リ奴隷ハ其英國ニ一應帶留シタルノ故ヲ以テ奴隷ノ身分ヲ
 脱シタルモノナリト主張セントシタルヲ以テ其奴隷ヲ許サ、ル英國ニ住居シタ
 ルノ事實ハ以テ其自由ヲ得セシムヘキモノナルヤ否ノ争點ヲ生シタルニ判事
 一トすといふる(Lord Stowell)ハさるるせとけいすノ判決シタル處ハ彼ノ「まようみ
 じよん」(Manumission)ノ如キ奴隷ヲ自由ナラシムルノ手續キヲ行フタル場合ト違カ
 其自由ヲ得ヘキ土地ニ住居スルノ間ニ於テ其權利ヲ執行スルニアラサレハ能
 ハストテ右ノ事實ハ獨リ以テ奴隷ノ自由ヲ與フルニ足ラサルモノト言渡シタリ
 又通則ヨリ論スレハ凡ク身分下之ニ屬スルノ權利ハ之ヲ許ス國ノ法律ヲ以テ論

スルヲ法理トスルヲ以テさせつとけいすノ判決シタル處ハ此理ニ戻レルモノ
 ニアラサルヤノ疑ナキニアラサルモ元來此法理ハ之ヲ許シタル法律ノ管轄以外
 ニ立テ之ヲ行フモ其處ノ法律ニ違ハサルノ場合ニ限レルモノナルコトヲ忘ルヘ
 カラサルナリ
 而シテ英吉利船舶ハ英吉利ノ土地同様英吉利法律ノ管轄スル所ナルヲ以テ彼ノ
 英吉利軍艦へ奴隷ノ逃走シ入りタル場合ノ如キ英吉利法律ノ主意ヲ申立テ「ま
 せつと」同様ノ權利ヲ請求スルヲ得ヘシ
 右ノ外英吉利法律ハ其定メタル所ノ外人ノ自由ヲ妨グルコトナク彼ノ人ヲ体
 刑ニ處シ終身懲役其他短期ノ刑罰ニ處シ一時之ヲ制限シ若シクハ或場合ニ於テ
 勉テ人ヲ軍役ニ服セシムル場合ノ如キハ止ヲ得サルニ出テ公益ヲ許リ國家ヲ守
 ルノ趣旨ヨリ外ナラサルモノト知ルヘシ
 次ノ兩件ハ我帝國憲法第二章第二十三條ニ匹適スルモノナリ今參照ノ爲メ茲ニ
 之ヲ擧ケンニ曰日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコ
 トナシ

試ミニ伯爵伊藤博文氏ノ曰ヘル處ヲ引用セシニ日本條ハ人身ノ自由ヲ保明ス逮捕監禁審問ハ法律ニ載スル所ノ場合ニ限リ其ノ載スル所ノ規程ニ從ヒ之ヲ行フコトヲ得ヘク而シテ又法律ノ正條ニ依ルニアラスシテ何等ノ所爲ニ對シテモ處罰スルコトヲ得ス必ラス如斯ニシテ然後ニ人身ノ自由始メテ安全ナルコトヲ得ヘキナリ蓋人身ノ自由ハ警察及治罪ノ處分ト密接ノ關係ヲ有シ其ノ間分毫ノ餘地ヲ容ル、コト能ハヌ一方ニ於テハ治安ヲ保持シ罪惡ヲ防制シ及檢探糾治スルニ必要ナル處分ヲシテ敏捷強勁ナラシムルニ拘ラス他ノ一方ニ於テハ各人ノ自由ヲ尊重シテ其ノ界限ヲ峻嚴ニシ威權ノ蹂躪スル所ヲラシメサルハ立憲ノ制ニ於テ尤至重ノ要件トスル所ナリ故ニ警察及司獄官吏法律ニ依ラスシテ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シ又ハ苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ其罰私人ヨリ重カラシメ刑法第二百七十九條第二而シテ審問ノ方法ニ至テハ亦之ヲ警察官ニ委ネスシテ必ス之ヲ司法官ニ訴ヘシメ辨護及公開ヲ行ヒ司法官又ハ警察官被告人ニ對シ罪狀ヲ供述セシムル爲ニ凌虐ヲ加フルモノハ重ヲ加ヘテ處斷ス刑法第二百七十二條凡ソ處罰シ法律ノ正條ニ依ラサル者ハ裁判ノ効ナキモノトス治罪法第四百十條此レ皆務メテ周匝縝密ノ

二二 三五

意ヲ致シテ以テ臣民ヲ保護スル所以ニシテ而シテ拷問及其他中古ノ斷獄ハ歷史上既往ノ事蹟トシテ復現時ニ再生スルコトヲ得セシメス本條更ニ之ヲ確保シ以テ人身ノ自由ヲシテ安固ノ塗轍ニ入ラシメタリ

ぶつゑあるすけいす (Bushell's case)

本件ハ證據ニ反シ若クハ判事ノ訓示ヲ守ラスシテ報告シタルノ倍審官ハ之レカ爲メ罰金ヲ科セラレ監禁セラレ或ハ其他ノ處分ヲ受ク可キモノニアラストノコトヲ判決シタルモノニシテ千六百七十年中びうりたん宗ヲ壓滅スル爲メ英國政府カ種々ノ規則ヲ發シタルヨリういりやむべん等ハ之ヲ犯シタルノ罪ヲ以テ裁判セラレタルトキぶつゑあるハ其倍審官ノ一人ナリシカ裁判處ノ訓示ニ反キタル回答ヲナシタルモノトシテ罰金ヲ科セラレ且監禁ヲ命セラレタリくぬんすべんち裁判所ハへひあすあしばすノ令狀ヲ發シぶつゑあるノ提出ヲ命シタルカ監獄長ハ右ノ事實ヲ理由トシテ報告ヲナシタリ
裁判官ハ右ノ報告タル正當ナルヤ否ヲ裁判シテ曰監獄長ノ回答ハ漠然タルモノト云ハサルヲ得ス之ヲシテ正確ナルモノナラシメンニハ如何ナル理由アリテ倍

審官ハ證據ニ背キタルモノナルカチ申立テサル可カラズ然ラサレハ當裁判所ニ於テ回答ノ如何ヲ判決スルノ材料存セサレハナリ元來倍審官ハ取調ヲ命セラレタル證據ニ付正實ニ之ヨリ生スル結果ノ報告ヲ爲スヘシト宣誓シテ其職ヲ盡スモノナリ判事カ證據ニ付訓示ヲナスモ本ヨリ其決着スヘキ所ヲ示シテ判定セシムルニアラス常ニ問題様ノ形ヲ以テ之ヲナシ其執レニ決スルカハ一ニ倍審官ノ判斷ニ任ス凡ソ一ノ證據ニ付キ人皆必スシモ同一ノ効力アルモノト判斷スヘキニアラサルヲ以テ本件ニ於テモ監獄長ノ報告シタル丈ニテハ未タ以テ倍審官カ故意ニ其宣誓ニ背キ其信シタル處ニ反シテ回答シタルトノ理由證據ヲ見ル能ハサルニヨリ必ク之ヲ免セラルヘキモノトス

右ノ如ク之ニ依リ推究スルニ英吉利法律カ他事ヲ置キ第一ニ保護スルハ臣民ノ身体ニ關シ其自由ト安全ヲ保存スルニアリ凡英吉利法律カ認許シタル手續キテ以テスル裁判ニ依ルニアラスハ臣民ノ身体ヲ監禁スルヲ得ス而シテ此裁判ハ固ト名ケテ英吉利王ノ特權ナリトスルモ英吉利王自カラ獨リ判事トナリテ其職ヲ盡スヲ得ス必スヤ英吉利法律ノ認許シタル規則ニ依リ撰任シタル裁

判官ヲ以テ其職ニ當ラシメサル可カラズ此規則ハ民事事件ノ區別ナク共ニ之ヲ支配ス此法律ニ背キテ言渡シタルノ裁判ハ不法ナリトス
 歴史ニ徴スル英吉利王カ屢々此規則ヲ犯サントシタルノ例ナキニアラスシテ現ニ刑事事件ニ就キ拷問法ヲ用ヒノコトヲ判事ニ請求セシニ判事ハ之ヲ拒ンテ其命ニ應ヒス遂ニ其目的ヲ達スルコト能ハサリシト云フ又公然判事ノ職權ヲ左右スルニアラス寧ロ鈔カニ判事ノ説ヲ聞キ事ヲ進退セントシタルノ事跡ナキニアラサレトモ英吉利判事ハ未タ出訴アラサル事件ニ付法廷外ニ於テ豫メ其説ヲ吐露スル如キハ堅ク自カラ戒メテ之ヲ爲サ、ルニ由リ遂ニ英吉利王ハ其目的ヲ達セサリシカ如シ元來英吉利判事ハ其職ニ就クニ當リ誓テ君民ニ對シ兩ナカラ公平適法ニ裁判官タルノ職ヲ盡スヘシ君王ノ臣民ヲシテ皆同一ナル法律ノ保護ヲ受ケ同一ニ權利ノ執行ヲ得セシムルニ付キ差等ナカラシムヘシト云ヘルカ故此誓ヲ守テ動カサルニ由ルナリ
 英吉利法律ノ公平無私ナルハ英吉利判事ノ位置獨立ナルニ依ル英吉利判事ハ當サニ其審問スヘキ事件ニ付キ豫メ其説ヲ吐露スルコトナク其言渡シタル裁判ト

之ニ決シタル理由ハ必ス公開シタル法廷ニ於テ之ヲ言渡シ一度言渡シタル裁判ハ之ヲ變交スルコトナシ一度言渡シアリタル裁判ハ法律家及天下全体ハ公有物ナルヲ以テ裁判官ハ再ヒ之ヲ動カスコトヲ得サルナリ
 英吉利法律ハ陪審官裁判官兩者ノ職掌ヲ區別シ之ヲ混交セシメサルニ注意ス又陪審官カ其職ヲ盡スニ當リ畏懼スルコトナカラシメソカ爲メ英吉利法律ハ殊ニ之ヲ保護ス其職掌上ノコトニ關シ人ノ之ヲ誹毀スルコトアルトキハ之ニ對シ誹毀ノ訴訟ヲナスノ權利ヲ與ヘタル其一例ナシテ若シ陪審官若シハ裁判官ノ判決ニ誤リタル處アルトキハ之ヲ正誤スル他ニ適法ノ道アルヲ以テナリ近世ニ到リ民事訴訟ノ場合ニ於テハ獨リ裁判官ヲシテ事實法律共兩ナカラ之ヲ判決セシムルノ勘考トナリタレトモ刑事ノ場合ニ於テハ決シテ陪審官ノ之ニ參與ヲ除キタルコトナシ英吉利法律ノ誠心ヨリ論スルトキハ政府人民間ノ訴訟ニ付其審判ヲシテ公平無私ナラシムルハ其憲法ヲ以テ設定シタル陪審制度ノ外他ニ之ヲ保護スルノ方便ナキヲ以テナリ

だ一ねるすけ一す (Darnel's Case)

本件ハ一へびあすこ一ばす令狀ニ對スル回答トシテ令狀ノ請求者ヲ監禁シタルハ君主ノ命ニ出ツルモノナリト云ヘルハ適法ノ答辯ニアラスト云フ事ヲ判示シタルモノニシテ昔ちや一るす第一世カ歐洲大陸ノ戦争ニ加ハラノ事ニ決セシモ議院ハ其資金ヲ給與セサルヨリ私ニ之ヲ募集スルノ方ヲ案シ書ヲ發シ人ヲ派シテ地方ノ有力家ニ説キ募集シタリシカ之ヲ拒ムモノアルカ若シハ其上納ヲ怠リタルモノアルトキハ其理由ヲ取正サンカ爲メ監禁セシメタリだ一ねる氏ハ監禁セラレタルモノ、一人ナルカへびあるこ一ばす令狀ニ依リ監禁適否ノ取調ヲ請求シタリ而シテ監獄長ハ之ニ付きくいんすべんち裁判所カ發シタル令狀ニ對シ君主ノ命ニ由リ監禁シタルノ旨ヲ以テセリ
 裁判官ハ原被兩造ノ辯論ヲ聞タル上説明シテ日本件ハ容易ナラサル大切ノ事件ナルヲ以テ我カ裁判官カ其誓フタル所ニ背カス悉皆ノ關係者ニ對シ公平ナル裁判ヲ言渡スヘキハ衆人ノ望ム所ナリ我カ裁判官ハ其誓ニ依リ王家ノ特權ヲ保存シ誰彼レノ別ナク衆人ノ權利ヲ伸暢セシムルノ職ヲ盡サ、ル可カラズ本件ニ於テ決スヘキハへびあすこ一ばす令狀ニ對スル答旨充分ニ適法ナリトスヘキモ

英吉利憲法(判決例)

ノコアラサルニ於テハ在監人ニ保釋ヲ許スヘキモノナルヤ將タ其儘在監セシム
 へキヤノ問題ヲ判決スルニアリ從來ノ先例ニ徴スルニ代言人ノ論スル如ク答旨
 ノ理由存セサルトキハ直ニ放免スヘシトハ却テ之ニ反スルモノナリ凡ソ答旨ノ理
 由ヲ備ヘタル場合ニ於テ在監人ヲ放免スルト否ハ大体其事件ノ性質上之キ正當
 ナリトスヘキヤ否ニ依ル而シテ其理由存セサル場合ニ於テハ之ヲ放免セサルコ
 ト勿論ナリトス茲キ以テ何レノ場合ニ於テモ各件ノ狀況ニ依リ之ヲ判別セサル
 へカラス其ノ斯ノ如ク之ヲ判別スルハ是君王ノ命令ニ出ツルモノナリ本件ニ於
 テだ一ぬるヲ出監セシムルコト適法ナリトセハ之ヲ許スハ勿論ナレトモ其理由
 ナキモノト思考スルニ由リ引續テ在監ヲ命スルモノナリ

右ノ裁判ニ依リだ一ぬる氏ハ引續テ在監セシカ後君主ノ命ニ依テ放免セラレ次
 ノ撰擧ニ於テだ一ぬる初メ其他均シク監禁セラレタル紳士カ撰擧セラレ衆議院
 ハ左ノ議決ヲナシタリ

三〇

第一、法律カ監禁ノ理由トシテ相當適法ナルモノト認ムル事實存スルノ場合ニア
 ラサレハ縱令君王ノ命ニ出ツルモノナリトスルモ獨立ノ臣民ヲ監禁スルヲ得ス
 第二、誰レニテモ縱令君主ノ命ニ出ツルモノナリトスルモ「へびあすこ一ばす」ノ令
 狀ニ依リ其監禁セラル、理由當否ノ取調ヲ受クルコトヲ得如何ナル場合ニ於テ
 モ之ヲ拒ムハ不法ナリ

三一

第三、若シへびあすこ一ばすノ令狀ニ對スル答旨ニシテ理不備ナルモノトセハ必
 ス在監人ヲ放免スルカ又ハ其保釋ヲ許サ、ル可カラス
 衆議院ハ右ノ決議ニ貴族院ノ同意ヲ得ンカ爲メ兩院ノ會合ヲナスニ當リ衆議院
 ノ代表者ハ其理ヲ陳ヘタルコト左ノ如シ

第一英吉利人民自由ノ權利ハ其古來ヨリ傳承スル「こんもんろ一」ノ法律ニ起因ス
 ルモノナリ其財産權ハ昔ヨリ「こんもんろ一」カ敬視シタル所ナルニ近來ニ至リ之
 ニ對スル侵害甚シ之ヲ保護セントスルニ當リ却テ監禁ノ苦楚ニ處セラレ適法ノ
 道ナル「へびあすこ一ばす」ノ令狀ニ因リ其救正ヲ求メント欲スルモ拒マレテ之ヲ
 得ルコト能ハス是我衆議院カ決議ヲ以テ右ノ處分ハ果シテ適法ナルヤ否古來ノ
 法律ト先例ニ照ラシ其取調ヘテ茲ニ求ムル所以ナリ
 第二獨リ古來ノ布告ノミナラス先例ニ照ラヌモ英吉利臣民カ有スル所ノ權理ニ

英吉利憲法(判決例)

右ノ判決ヨリシテ英吉利法律ノ存スル所ヲ説明セシニ如何ナル法律ニ依リ新ナル權利ヲ創造スルモ明文若シハ暗ニ之ニ對スルノ救正方ヲ備ヘサルハナシ第一刑事ノ手續キニ依ルカ第二民事ノ手續キニ依ルカ第三「へびあそこ」ばす」ノ令狀ニ依ルコアリ然レトモ裁判所ハ君主ノ特權ニ依リ設立シ其裁判官ハ君主ノ代表者ナルヲ以テ君主カ不法ニ人ヲ監禁シタル場合ノ如キ其裁判所ニ於テ君主ヲ被告視スルハ實地爲シ能ハサル事ナルニ依リ第一第二ノ手續キヲ用エルヲ得ス獨リ「へびあそこ」ばす」ノ手續アルノミ

又凡ソ人ヲ監禁スルハ其罪ノ重キカ故相當ノ刑ニ處センカ爲メ其取調ヲ待タシムル間之ヲ爲スモノアリ又ハ其罪ノ輕キヲ以テ之ニ對スル罰トシテ科スルモノアリ此場合ニ於テハ其取調ヲ終ルニ至ルマテ未タ之ヲ科スルノ理由存セサルヲ以テ必ス之ニ對シ先ツ保釋ヲ差許スヲ法律トス又「へびあそこ」ばす」ノ令狀ハ裁判所閉廷期限内ニ於テ之ヲ請求スルモノアルトキハ裁判所ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス必ス直ニ之ヲ發シ其日附ヨリ多クモ二十日ヲ過キサル内ニ於テ令狀ニ對スル取調ヲ爲シ之ヲ處分スルノ手續ヲ盡スヘキモノトスる「どらやんせるる」各裁判官ニ

シテ之ヲ發スルノ職權ヲ有スルモノカ此請求ニ應セサルコトアルトキハ五百磅ヨリ少ナカラサル罰金ニ處セラレヘシ

第二回

前回ニ於テ論シタルハ人民身体ノ自由ト此權利ヲ保護シ若シハ其侵害ヲ救正スルニ備ヘタル英吉利憲法ノ規則ヲ説明シタルモノナリ續テ論スルハ臣民ノ所有權ト其制限ニ付キ憲法カ定メタル所ノ大綱ヲ示スニアリ臣民ノ所有權ヲ保護スルニ就テハ英吉利憲法殊ニ注意ヲ加ヘタリ抑モ所有ノ權理タル其價值ヨリ論スルトキハ實地身体自由ノ權利ニ勝レルモノトス如何程法律ノ自由ヲ保護スルコトアルモ所有權利ヲ保護スルコトナシトセハ臣民其生ヲ養ヒ之ニ安ンスルコトナク其身体ヲ勞シ資力ヲ抛テ殖産ノ道ヲ許ラサルヘク其生命ヲ抛テ法律ヲ保護シ國土ヲ防禦スルノ災役ニ當ラサルヘシ是レ各國法律ノ之カ權利ヲ定メ之ヲ保護スルノ道ヲ立ツルニ怠リナク又怠リアルヲ得サル所以ナリトス英吉利法律ノ所有權利ニ付キ定メタル所ハ次ニ論セントスルバ「んか」すけ「すけ」以テ之ヲ詳ニスルヲ得ヘシ

本件ハ君主カ臣民ヨリ借受ケタル借金ニ對シ年々ノ税金ヲ引當テトシ年金仕拂
 ナ約束シタルトキハ請願手續ニ依リ其仕拂ヲ請求スルノ權利臣民ニ存ストノ事
 ナ判定シタルモノニシテ其事實ハ千六百年代中英吉利王カ銀行ヨリ年々ノ税金
 ナ引當テニ手形ヲ發シ借入金ヲナシタルコトアリシカ此返済ニ怠リナキヨリ非
 常ニ信用ヲ得銀行ハ引續キ多額ノ貸附ケテナシナカラ別ニ税金ノ仕用方ニ就テ
 ハ疑念ヲ抱カス之ヲ問フコトナカリシカ王家ハ尙ホ不意ノ費用ヲ要スルコトアリ
 テ更ニ借入金ヲナシ從來ノ債主ヲ捨テ此債主ニ先拂ノ約束ヲナシタルヨリ從來ノ
 貸附ヲナシタル銀行ノミナラス其銀行カ預リタル金圓ニ就テモ返済ノ期ヲ誤リ
 タルヨリ銀行ノ債主モ共ニ非常ニ困難ヲ蒙リ延滞シタル王家ノ借入金額ハ一百
 萬磅餘ニ登リタルヲ以テ談判ノ末王家ハ年六分利付キノ年金ヲ以テ其仕拂ヲ約
 スルコト、ナリシカ是亦タ其履行ナキヨリ年金ノ權者ナル銀行ハ^ハるさすちるの
 こそ^トナル重ニ國稅ニ關スル訴訟ノ事ヲ管轄スル裁判所ニ請願シタリシニ決ス
 ヘキ所ノ要點ハ第一國稅引當テニ約シタル年金ハ王位ノ相續者ニ對シ請願者カ

請求ヲナスニ充分ナル理由トスヘキ契約ヲ支フルモノナルヤ否第二請願手續ハ
 此請求ヲナスニ取ルヘキ正當ノ路道ナルヤ否ノ二問ニ歸セリ
 裁判ニ曰第一本件ノ請求ニ對スル答詞ハ君王ハ國稅ヲ讓渡スノ權利ナシト云フ
 ニ在レトモ既ニ即位アリタル上ハ其收入スル國稅ヲ處分スルノ全權固ヨリ之ニ
 屬ス而シテ若シ無限ニ之ヲ許スコトアリトセハ君主ハ英吉利ノ國土ヲ讓與スル
 モ可ナリト云フノ結果アルカ如ク論セントスレトモ右兩者ノ相區別シ得ヘキハ
 勿論斯ノ如キ非常ノ場合ヲ以テ王家ヲ想像スヘキモノニアラス況ンヤ本件ノ年
 金ハ布告ヲ以テ我立法議院ノ認許シタルニ出ツルモノナルヲヤ是亦タ以テ我法
 律ノ認ムヘキ契約ナリトスヘキノ確證ナリ又加之外患ノ迫マルニ當リ議院ノ議
 決ヲ經テ軍資ヲ支出スルノ暇ナキ場合ニ於テ國稅ヲ引當テニ公債ヲ起シタルノ
 例ナキニアラス是亦以テ本件ノ取引タル不法ナラサルヲ證スルニ足ル又凡ソ
 人ヲ賞シ其功勞ニ報センカ爲メ年金ヲ付與スルハ英吉利王ノ特權ナリ而シテ特
 權ヲ行フ爲メ國稅ヲ以テ之ニ宛ツルハ相當ノ事ニシテ固ヨリ疑フヘカラサルノ
 コトナリトス若シ議院ノ布告ヲ以テ臣民ニ或財產ヲ下賜スルコトアルトキハ其

人自由ニ之ヲ處分スルノ全權ヲ得國稅モ亦々君主カ議院ノ布告ニ依リ贈與ヲ受ケタルモノナリ其之ヲ處分スルノ權利何クソノ其臣民ニ劣ルコトアルヘケンヤ其他本件ノ取引ハ契約法上瑕瑾アリトスヘキ所ナキニ依リ相當ナリト云ハサル可カラス第二本件ノ如キ場合ニ於テ請願ノ手續キニ依リ^るきすち^るる^るこ^いと^へ出願スルハ適法ナリトス

右ノ判決例ヨリシテ推究スルニ人民ノ所有權英吉利法律ノ殊ニ敬視スル所ニシテ其保護ハ一日モ曾テ之ヲ怠リタルコトナシ君主ト雖モ人民ノ許諾ナク之ヲ侵害スルヲ得ス其權利ニ疑ハシキカ又ハ争フモノアルトキハ適法ナル裁判所ノ審理ヲ經テ之ヲ定ムルヨリ他ニ道ナキモノトス是他ノ判決諸例ニ照ラシ確證シ得ヘシ尙ホ君主ハ一人ノ許諾ナク其所有權ヲ侵スコトヲ得サルノ例ヲ舉ケンニ若シ公有ノ土地ニ設ケタル渡場ヲ通行スルモノハ或一定ノ渡船賃ヲ仕拂ハサルヲ得サルノ慣習存スルモノトセン各人民ハ必ス此慣習ニ從ヒ其義務ヲ盡サ、ルヲ得サレトモ君主ハ此義務ナシ然レトモ其渡船場一私人ノ地内ニ設ケタルモノトセンカ君主ト雖モ其慣習ヲ守リ渡船賃ヲ拂ハサル可カラズ是其地所有者ノ權利ニ屬

スルモノナルヲ以テナリ

又英吉利王ハ特別ノ命令ヲ以テ特別ノ人ヲ保護センカ爲メ特權ヲ與ヘントスルモ其結果タル公衆ノ權利ヲ害スルコトアリトセンカ英吉利法律ハ之ヲ許サ、ルナリ彼ノ^るり^ぎべ^す女王カ其命令ヲ以テ^カ骨^メ婢^ヲ專賣スルノ特許ヲ與ヘタル事件ノ如キ是ナリ(此ノ特別ノ保護ヲ與フルカ如キ一般ノ法律ヲ改ムルノ影響ヲ來スヘキ君主ノ處分ヲ制限シタル憲法ニ就テハ以下再論スルコトアルヘシ)其他君主カ一人ノ所有權ヲ犯スモ不法トセサルハ獨リ公益上之ヲ必要ナリトスルノ場合ニ限ルモノトス而シテ君王ハ果シテ或ル争トナリタル特權ヲ有スルモノナリヤ否若シハ公益上ノ必要存スルモノナルヤ否ハ臣民ニ於テ相當ノ敬禮ヲ守ルニ於テハ自由ニ其審理ヲ與フルヲ常トセリ而シテ之ヲナスノ手續キハ英語ペチ

しよん、おふ、らいと(Petition of Right)ニシテ譯シテ請願ノ手續ト云フ
 べち^えよん、おふ、らいとハ凡ソ君主カ不注意若シハ人情ヲ詳カニセサルヨリ臣民ノ動産不動産其他ノ財産ヲ所持シテ其所有權ヲ犯スコトアルトキハ之ヲ回復シ若シハ之ニ相當ナル辨償ヲ與ヘラレノコトヲ請願スルノ場合ニ用ユヘキ手續

ナリトス

右ハ昔ヨリ此手續ヲ用ユルコト適法ナルヤ否ヲ論シタル判決例ヨリシテ推論シテ下シタルノ定義ナリトス一時ノ説ニテハ右ノ手續ハ獨リ動産不動産等ノ確定物ヲ回復スルヲ目的トスル場合ニ限レルモノノ如クシタレトモ君主カ契約シタルカ若シハ辨償スヘシトスル金額ヲ回復スルノ場合ニモ之ヲ用ユルコトヲ得ルトハ判決例ノ定メタル處ナリ

凡ソ君王ハ過アルコト能ハストハ英吉利法律ノ格言ナルヲ以テ若シ君主ノ面前ニ於テ其命令ニ出テタル怠慢ノ處置アリタルモノトセンニ之ヨリ生スル損害ハ彼ノ普通ノ場合ニ用ユヘキ法理ナル凡ソ本人ハ代人ノ過ニ對シ責任ヲ負ハサルヘカラストノ規則ニ違ヒ此過ヲ犯シタル役員ニ對シ救正ヲ求ムルヨリ他ニ道ナキモノトセリ

右判決例ノ示ス處ハ我帝國憲法第二章第二十七條三十條ノ場合ニ匹適スルモノナリ以下右兩條ト伯爵伊藤博文氏ノ義解ヲ參照スヘシ然レトモ是實ニ讀者ノ參照ニ供センカ爲メニ之ヲ掲グルニ止マルヲ以テ必スシモ之ニ同意シタルモ

ノト爲ス可カラズ右ノ義解ハ立法上ノ理論ヨリ下シタルコト多キニ居ルノミナラス其意見必スシモ余カ意見ト一致シ若シハ其區域ヲ同フシタルモノト云フヲ得サルヲ以テナリ讀者上來及下文ニ於テ爲シタル義解ノ引用ニ就キ右ノ戒ヲ忘ル、勿レ

第二十七條ニ曰日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

伯爵伊藤博文氏ノ義解ニ曰本條ハ所有權ノ安全ヲ保明ス所有權ハ國家公權ノ下ニ存立スル者ナリ故ニ所有權ハ國權ニ服屬シ法律ノ制限ヲ受ケサルヘカラス所有權ハ固ヨリ不可侵ノ權ニシテ而シテ無限ノ權ニ非サルナリ故ニ城壘ノ周圍線一定ノ距離ニ於テ或ル建築ヲ禁スルハ賠償ヲ要セス鑛物ハ鑛法ノ管理ニ屬シ山林ハ山林經濟ノ標準ニ依リ規定シタル條則ニ由ラシメ鐵道線ヨリ一定ノ距離ニ於テ樹ヲ植ルコトヲ禁シ墓域ヨリ一定ノ距離ニ於テ井ヲ鑿ルコトヲ禁スルカ如キノ類此レ皆所有權ニ制限アル證徴ニシテ而シテ各個人ノ所有ハ各個ノ身体ト同ク國權ニ對シ服屬ノ義務ヲ負フ者ナルコトヲ認知スルニ足ル者ナリ蓋所有權

私法上ノ權利ニシテ全國統治ノ最高權ノ專ラ公法ニ屬スル者ト牴觸スル所アル
 ハニ非サルナリ
 第三十條ニ曰日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル處ノ規程ニ從ヒ請願ヲナ
 スコトヲ得

伯爵伊藤博文氏ノ義解ニ曰請願ノ權ハ至尊仁愛ノ至意ニ由リ言路ヲ開キ民情ヲ
 通スル所以ナリ孝徳天皇ノ時鐘ヲ懸ケ匱ヲ設ケ諫言憂訴ノ道ヲ開キタマヒ中古
 以後歷代ノ天皇朝殿ニ於テ百姓ノ申文ヲ讀マセ大臣大納言ノ輔佐ニ依リ親ク之
 ナ聽斷シタマヘリ嗟哉天皇以後此ノ事廢レリ○愚管抄之ヲ史乘ニ考フルニ古昔明良ノ君主ハ皆言
 路ヲ洞通シ冤屈ヲ伸疏スルコトヲ力メサルハアラス蓋議會未タ設ケス裁判聽訟ノ
 法未タ備ハラサルノ時ニ當テ民言ヲ容納シ民情ヲ疏通スルハ獨君主仁慈懿徳タ
 ルノミナラス又政事上衆思ヲ集メ鴻益ヲ廣ムルノ必要ニ出ル者ナリ今ハ諸般ノ
 機關既ニ整備ニ就キ公議ノ府亦一定ノ所アリ而シテ猶臣民諸願ノ權ヲ存シ匹夫
 匹婦疾苦ノ訴ト父老獻芹ノ微衷トシテ九重ノ上ニ洞達シ阻障スル所ナキヲ得セ
 シム此レ憲法ノ民權ヲ貴重シ民生ヲ愛護シ一ノ遺漏ナキヲ以テ終局ノ目的ト爲

スニ由ル而シテ政治上ノ徳義是ニ至テ至厚サリト謂フコトヲ得ヘシ
 但シ請願者ハ正當ノ敬禮ヲ守ルヘク憲法上ノ權利ヲ濫用シテ以テ至尊ヲ干瀆シ
 又ハ他人ノ陰私ヲ摘發シテ徒ニ讒誣ヲ長スルカ如キハ徳義上ノ最モ戒慎スヘキ
 所ニシテ而シテ法律命令又ハ議院規則ニ依リ規程ヲ設クルハ又已ムヲ得サルニ
 出ル者ナリ
 請願ノ權ハ君主ニ進ムルニ始マリ而シテ推廣シテ議院及官衙ニ呈出スルニ及フ
 其各個人ノ利益ニ係ルト又公益ニ係ルトヲ問ハズ法律上彼此ノ間ニ互ニ制限ヲ
 設ケサルナリ

第三回

身体自由ノ權理ト財産所有ノ權理ハ兩ナカラ英吉利法律ノ古來ヨリ保護シテ一
 日モ止マサル所ナリ未タ曾テ其然ラサルヲ説キタルモノアルヲ聞カス又英吉利
 王カ之ヲ犯シタルノ例アルヲ知ラス英吉利法律カ此保護ヲ與ヘンニハ二條ノ法
 律ヲ以テセリ曰英吉利王ハ現行ノ法律ヲ變スルコトヲ得ス又之ヲ増減シ若シハ
 其執行ヲ中斷スルコトヲ得ス次ニ説明セントスル判決三例中第一第二ハ第一ノ

場合ヲ説明シ第三ハ第二ノ場合ヲ説明ス

第一ベードとすけーす (Bates's Case)

本件ハ英吉利王カ通常税率ノ外或ル輸入ノ貨物ニ就キ特別ナルチ税目ヲ課シタルニベードとすハ其貨物ヲ輸入シナカラ之ヲ拂ハサルヨリ^スス^キス^チス^ルス^コト^トハ同
 人ヲ召喚シタルニベードとハ其規則ニ背キタルノ税率トシテ之ヲ支拂ハサル旨
 答辯シタルニ同裁判所ハ王家ノ召喚ニ理由アル旨ノ裁判ヲ云渡シタリ後數年ナ
 ラスシテ衆議院ハ此事ニ就キ論シタル所アリシカヘー^スウ^イル^氏ハ此裁判ヲ攻
 撃シテ其法律ニ背ケルモノナルコトヲ證シタリ曰第一凡ソ王家ノ有スル税關課
 税權ハ^ハこ^んも^んろ^ゝノ許セル處ニシテ一定ノ税率ニ限ルモノナリ其然ルハ君臣
 ノ關係タル強弱相對スルモノナルカ故上ハ下ヲ凌クカ如キ過チ制限センカ爲メ
 ナリ又君王ハ如何ナル價額ヲ徵收シ得ルモノナルカ常ニ明カニ之ヲ知り豫メ之
 ニ期シテ算定スルノ便ヲ得セシメ^ンカ^爲メ^ナリ臣民ハ如何ナル金額ニ至ルマテ
 上納セサル可カラサルカ豫メ其制限ヲ知り之ニ備ヘシメ^ンカ^爲メ^ナリ君主ハ此
 明カニ定リタル金額限リハ臣民ヲシテ之ヲ上納セシムルノ特權ヲ執行スルノ制

限ヲ知ランカ爲メナリ臣民ハ際限ナク君ノ命ノミ之レ奉シ遂ニ其商品悉皆ノ價
 格ニ至ルマテ之ヲ上納セシメラル、カ如キ憂チ防カンカ爲メナリ其他如何ナル
 税目ニ就テモ或ル一定シタル税率ヲ定メサルハナシ此ノ一定シタル税率ニ基キ
 諸税ヲ徵収スルノ特權ヲ我君主ニ附與シタル所以ハ之ニ依テ以テ徵収シタル税
 額ヲ以テ其尊位ヲ保タシメ其人民ヲ保護スルノ用ニ供セシメ^ンカ^爲メ^ニシテ人
 民ハ此保護ヲ受^ンカ^爲メ^此一定シタル税率ヲ收ムルモノナリ人或ハ此制限タル
 不意ニ戰爭アルトキノ如キ君主カ護國ノ責任ヲ盡サントスルモ得ヘカラス之ニ
 必要ナル軍資ヲ徵收スルノ道ヲケレハナリト云フモノアルヘキモ元來戰爭ニハ
 攻撃ノ位置ニ立ツト防禦ノ位置ニ立ツトノ二種アレトモ若シ他國ヲ攻撃セント
 スルコト獨リ君主ノ意ニ出ツルモノナラシメタリ其必要ナキチ以テ其軍資ヲ要セ
 サルモノナルヤ從テ明カナリ若シ名義アルモノナリトセンカ君王ハ容易ニ議院
 ヲ徵集シテ其支出ヲ命スルヲ得ヘク臣民ハ之ニ對シテ異議スルコト勿ルヘシ若
 シ防禦ノ必要ニ出ツルモノナリトセンカ君主又之ニ必要ナル軍資ヲ徵收スルコ
 ト容易ナレハ此制限ハ一モ論者ノ憂フルカ如キ不便ナキモノトス

此故ニ凡ソ議院ノ承諾アルニ非スハ如何ナル税目モ君主ハ之ヲ賦加スルヲ得
 ス其必要アリトセハ臣民ハ常ニ君主ノ請求ニ應ジ之ヲ奉納シタルヲ常トス是ヲ
 以テ今茲ニ論スル所ノ税目ハ不法ナルモノトスト論結シタリ
 是レ我講議ノ爲メ必要ナル部ノミヘラさういる氏ノ演説ヲ掲ケタルモノトス此
 結果トシテ衆議院ハ長文ノ嘆願書ヲ差出セシカ君主ハ嘆願悉皆ノ請ヲ容レタル
 ニアラス其各幾分ヲ減シタルニ止マレトモ君主ヲ敬愛シテ英吉利臣民ハ後別ニ
 定額外ノ上納金ヲナスニ至レリ

せけいすおふぎのぶもねー (The Case of Ship money)

本件ハ國難防禦ノ爲メ英吉利王カ其入費若シハ用品ヲ徴収スル權利如何ヲ論
 定シタルモノナルカ千六百三十四年海賊アルカ爲メ其害ヲ防クノ防禦ニ充ンカ
 爲メ諸屬ヨリ船舶ヲ艦粧シ船人糧食彈藥等ヲ備ヘ防禦ノ役ヲ盡スヘキ旨ヲ命ジ
 タルノ令狀ヲ發シタリシカ之ヲ發スノ前君主ハ果シテ此特權アルヤ否ヲ裁判官
 ニ下問アリタルニ此様ナル場合ニ於テ君主ハ此ノ特權ヲ有ス而シテ此特權アリ
 トスルノ事實理由存スルヤ否ハ獨リ君主ノ判定スルニ任スヘキモノナリト答ヘ

タリト云フ

はんぶでん氏ハ二十志ノ出金ヲ爲スヘキ旨命セラレタルニ依リ之ヲ拒ミタルヨ
 リ「るきすちるかー」裁判所ニ於テ訴ヘラレタル所右ノ令狀ヲ理由トシ其令狀タル
 法律上被告はんぶでんヲ召喚スルノ理由トスルニ足ラサル旨ヲ以テ之ヲ抗辨セ
 リ

はんぶでん氏代理人論シテ曰英吉利君主ハ平常ヨリ其御領地ヲ有セラレ且又「こ
 んもんろー」ノ有スル特權ヲ行ヒ且又海關稅ヲ課スルノ權利ヲ有スレトモ是レ皆
 定リタル場合ト定タル金額ニ限レルモノトス若シ例外ノ場合ナルニ於テハ必ス
 議院ニ請フテ御支出ヲ求メサル可カラス如斯シテ支出シタルノ資金ヲ以テ英國
 ヲ守リ内憂外患ヲ防禦スルノ責任ヲ盡サ、ル可カラス又彼ノ不意ノ亂アルニ際
 シテハ臣民皆命ヲ奉シテ防禦ニ從事セサル可カラサルハ勿論ナレトモ其軍器費
 用等ハ悉ク君主ノ右資金中ヨリ寄附セラルヘキモノトス又如何ナル場合ニ於テ
 モ各英吉利島外ニ出テ此役ニ服スルノ義務ナキモノトス又一々議院ヲ經テ軍資
 ヲ徴収スルモノトセハ議院ハ多數ヲ以テ成ルモノナルカ故議員ヲ徴収スルコト

容易ナラス爲メニ其必要ノ機會ヲ失スルノ恐レアリト議スルモノアルヘケレトモ已ニ論シタル如ク豫テ君王ニ充分ノ金額ヲ給附シアルヲ以テ其變ニ應スルニ充分ノ資料アルヘキ筈ナリトテ種々ノ法律先例等ヲ惹キ其論ヲ支ヘタリ

裁判官ハ本件ノ令狀タル適法ナリトシ且「こんもんろ」ニ依ルモ國是トスヘキ所ヨリ論スルモ英吉利王ハ防國ノ爲メ臣民ヲ徵集シテ其役ニ服セシメ且其費用ヲ支出セシメ又果シテ此特權ヲ行フヘキ時機至リタルモノナリヤ否ヲ判定スルハ其特權ナリト云渡シタリ

衆議院ハ右ノ判決ヲ不法ナリトシ其決議ヲ以テ元來はんぶでんニ對スル訴訟手續ハ不法ナルノミナラス英吉利法律ト其從來ノ先例ニ反スルモノナリトテ其旨ヲ公布シタリ

右ノ二例ヨリ推究スルニ特權トシテ君王ノ有スル所ノモノハ其一個ノ利益ニ供スルニアラス君主タル職權ヲ盡スニ不便ナカラシメンカ爲メナリ若シ此制限内ナリセハ英吉利法律ハ常ニ之ヲ保護ス若シ其以外ナリセハ一モ之ヲ許スコトナシ假リニ此制限ト保護ノ區域立タサルモノトセンカ立法議院ハ無用ノ府トナ

リ一モ政見ヲ牽制スルノ目的ヲ達スル能ハズ王家ハ終ニ無限ノ權利ヲ有シ之ヲ濫用シテ止ムコトナキニ至ルヘシ君主ハ擅ニ海關稅ヲ課スルノ權アルヤ否又船稅ヲ課スルノ權アルヤ否而シテ其權ハ君主カ議院ノ承諾ヲ經テ獨リ其特權ニ依リ之ヲ賦課スルヲ得ヘキヤ否以下之ヲ穿鑿スヘシ之ヲ論スルニ先チ英吉利王ハ隨意ニ法律ヲ變更スルコトヲ得ズ英吉利王ハ英吉利政府ノ一部ト云フニ過キスシテ英吉利政府ハ英吉利王ノ政府ニ非ズ其政府ノ作レル法律ハ必スヤ其全部カ一致シテ之ヲ改正スルニ非ズンハ適法ナル立法ノ道ヲ得タルモノニアラサルナリ

英吉利王カ法律ニ依リ賦課スルコトヲ得ルハ英吉利法律ノ指定リタル海關稅目ニ對スル稅金ナリ次ニ英吉利王ハ海岸防禦商業保護ノ名義ヲ以テ或ル定リタル比例ニ依リ物品稅ト船舶稅ヲ課スルヲ得又或ル定リタル比例ニ依リ動產不動產ニ課稅ニスルコトヲ得是レ皆英吉利法律カ各王代々認許シタル處ナレトモ其他英吉利王カ臨事徵收シ若クハ借入レ其極適法ナル稅金同様不法ニ之ヲ課セントシタルコトナキニアラサレトモ常ニ其目的ヲ達セス永ク其意ヲ恣ニスルコト能ハスシテ止ミタリ

せ、け、す、ね、ふ、せ、ふ、ん、び、し、よ、つ、ぶ、す (The case of Seven Bishops)

じゑむす第二世王ノ時代ニ於テ英吉利寺院派ノ外他ノ宗派ノ自由ヲ制限シタル法律アリシカレ、じゑむす王ハ、ろ、ま、ん、か、そ、り、つ、く、宗ノ信者ナルヲ以テ國安ヲ増進スルノ名ニ托シ、右ノ法律ヲ廢止シ、諸派ヲシテ同一ノ自由ヲ與ヘントシ、敕諭ヲ出シ、各英吉利派ノ寺院ニ於テ之ヲ朗讀スヘキ旨命令アリタリシカ、か、ん、ど、る、ば、れ、大僧正始メ之ヲ快トセ、右ノ敕諭ハ憲法ニ反シタモノニシテ議院ノ立法ニ基キタルモノナラサルモノトシ、之ヲ取消サレタリトシテ、請願書ヲ差出シタリ、じゑむす王ハ此ノ請願書ヲ見テ忿怒止マ、右ノ請願書ニ署名シタル大僧正以下ノ者ヲ召入レ、其署名ヲ證認セシメントセシカ、大僧正等ハ凡ソ人己ヲ罪スルノ證トナルヘキ事項ヲ證言スルヲ要セサルハ英吉利法律ノ認ムル所ナリトテ、之ニ抗辯セシカ、遂ニ再度ノ命令アリタルニ依リ、皆其自筆ノ署名ナル旨申立テタリ、後右ハ反逆不敬ノ誹毀罪ヲ犯シタルモノトシ、きんくすべんち裁判所ニ出廷スルノ請書ヲ差出スヘキ旨命令セラレタレトモ、僧正ハ貴族ナルヲ以テ同裁判所ノ管轄ニ服スヘキモノニアラストテ、再ヒ之ヲ拒ミタリシカ、遂ニ拘留セラル、處トナリ、後開廷

日ニ至リ、此拘留ハ適法ナルヤ否ノ辯論アリタル後、無罪ノ答辯ヲナシタリ、告訴代言人ノ要旨ハ、被告カ本件ノ嘆願書ヲ捧呈シタルハ、君主ノ尊嚴ヲ冒シ、其特權ニ立入り、陛下ノ尊威ヲ辱カシメタルモノナルニ依リ、反逆不敬ノ誹毀罪成立スト云フニアリタリ、

被告代言人ノ要旨ニ曰、被告ハ國家ノ宗教ヲ掌トルモノナリ、君主カ不法ノ命令ヲナシタルニ對シ、之ヲ申立テ、其過ナカラシメ、ソノコトヲ計ルハ、各臣民ノ職分ナリ、如何ニ君主ノ命令ナリトスルモ、不法ノ命ヲ奉スルハ、臣下ノ職分ニ乖ケルモノナリ、本件ノ敕諭ハ、國家ノ法律ヲ取消スノ結果ヲ生スルモノナルヲ以テ、其不法ナルハ、勿論ノコトナレハ、被告カ親シク陛下ニ内謁シ、本件ノ請願ヲ爲シタルハ、各臣下カ此場合ニ於テ有スル權利ニ基ケル相當ナル敬禮ノ道ヲ以テシタルモノニ過キサレハ、之ヲ名ツケテ、本件ノ誹毀罪ヲ組成スルモノト云フヲ得スト、現ニ判事カ英吉利王ノ命令不法ニ出タリトテ、之ヲ奉セサルノ場合ニ關スル判決ト種々先例ヲ引用シ、告訴ノ事實理由存セサル旨ヲ辯護シタリ、

裁判官中ニ、八種々説ヲ異ニシタルヲキニ非サレトモ、結局陪審官ノ取調ニ附スル

ニ足ルヘキ事實證據存スルモノナリトシ陪審官ニ下問シタルニ無罪ノ回答ヲ爲シタリ

右ノ判決例ニ依リ推究シ得ヘキハ第一英吉利王ハ其勅命ヲ以テ法律ノ力ヲ變シ若シクハ之ヲ中止シ若シクハ之ヲ枉ケテ一一人ヲ特遇スルヲ得ス必スヤ英吉利立法議院ノ改正増減ヲ定メタル處ニ依ラサル可カラス第二凡ソ君王若シクハ議院ニ請願スルノ權利ハ人民之ヲ有ス此權利ヲ拒絕スルカ如キハ憲法ニ背ケル不法アル者トス第三人皆國事ヲ談スルハ人民固有ノ權利ナルヲ以テ之ヲ拒ムカ如キハ憲法ニ背ケル不法ナルモノナレトモ此權利ヲ利用セント欲スルモノハ必スヤ相當ナル分限ト相當ナル敬禮ヲ以テスル文言ニ依ラサル可カラス然ラサレハ其利用ハ却テ亂用トナリ遂ニ治安ヲ害シ人ヲ害スルカ如キ誹毀ノ罪人タルヲ免カルヘカラサル可キヲ以テナリ

第四回

前數回ニ於テ君主臣民ノ關係ハ略ホ之ヲ講述シ了セルヲ以テ今回ハ進シテ政府ト臣民トノ關係ニ就テ講セシニ政府ハ之ヲ行政陸軍海軍及司法ノ三個ニ大

別シ此等ニ對シテ臣民ノ權義如何ヲ逐次論スヘシ而シテ英吉利憲法ニ依レハ君主ハ政府ノ一部トシテ其上ニ位シ右諸部ノ官吏ヲ任免スルハ其特權ニシテ其制限ハ殊ニ議院カ君主ノ承諾ヲ經テ定メタル處アルノミ例之ハ裁判官ハ法律ヲ犯セル場合ニ非サル限りハ永ク其任ニ居ルヘク上下兩議院ノ上申ヲ以テノミ任免ヲ定ムル如キ是ナリ此部ニ於テ論スヘキハ臣民ヨリ官吏カ職務上盡セル行爲ニ對シ訴フル處アルニ際シ此原告者ノ權利ヲシテ損害ナカラシメ此被告者カ其職務ヲ盡スカ爲メ執行シタル事柄ヲシテ公務ヲ行フノ障礙ナラシメス雙方其所ヲ得セシメント計テ止マサルハ英吉利法律ノ精神ニシテ其妙自カラ判然タルニ至ルヘシ

リーチ對ムネー (Leach v. Money)

本件ハ治安ヲ害スル誹毀罪ヲ犯シタリトスル被告ノ名ヲ掲ケスシテ其人ノ引致ヲ命令スル爲メ國務大臣カ發シタル無名ノ令狀ハ不法ナルコトヲ判決シタルモノナリ

其事實ヲ案スルニ千七百六十三年原告ハ其發行スル新聞ハ英吉利王ノ演説ヲ載

セ且之ニ關スルニ論說ヲ掲ケタルハ不敬誹毀罪ヲ犯シタルモノトシ國務大臣ノ一人カ本件ノ令狀ヲ發シ陛下ノ使丁ナル被告等ニ之ヲ執行セシメシカ被告等ハ原告ヨリ其發行者ナリトシ原告ノ家宅ヲ搜索シ其書籍及書類ヲ差押ヘ且四日間原告ヲ留置シタルニ依リ其所爲ハ不法ナルモノトシ損害要償ノ訴ヲ起シ二千磅ヲ請求シタルニ被告等ハ君主ノ命ニ依レル令狀ヲ執行シ且之ヲ發シタルハ國務大臣ナル之ヲ發スル權利ヲ有スルモノヨリ受取リタル所ニシテ上官ノ命令ニヨレルモノナレハ其所爲一モ不法ナラストシ辯護シ陪審官ノ審問ヲ待タスシテ直ニ棄却アルヘキ筈一モ之ヲ支フルノ事實理由存セサル旨ヲ以テナリト論シタレトモ裁判官ハ其答辯理由ナキモノトシタリ

裁判官ノ辯明ニ曰本件ノ令狀ハ漠然トシテ何人ヲ引致スルコトヲ命シタルモノナルカ其明言ナキノミナラス文言ヲ以テ考フルモ其何人タルカ未タ之ヲ決セス引致シテ取調ノ上之ヲ定ムヘシト云フニアルカ如シ令狀之ヲ發スルハ裁判官自カラ之ヲ執行スルニアラス他人ヲシテ之ヲ執行セシメサル可カラサルモノナルヲ以テ漠然タル令狀ハ法律ニ違フタル者ニシテ是先例ノ廣ク示ス處ナリトス茲ニ

以テ本件ノ引致ハ不法ニシテ被告ノ答辯ハ一モ理由ナキモノトス

ウィルズ対ウッド (WILKES V. WOOD)

本件ハ治安ヲ害スル誹毀罪ヲ犯シタリトスル被告ノ名ヲ掲ケス其書類ヲ搜索スル命令狀ヲ國務大臣カ發シタル無名ノ令狀ハ不法ナルコトヲ判決シタルモノナリ

本件ノ事實ヲ案スルニ千七百六十三年原告ハ或新聞ニ掲載ノ不敬誹毀罪ヲ犯シタルモノトシ國務大臣ノ一人カ本件ノ令狀ヲ發シ陛下ノ使丁ナル被告等之ヲシテ執行セシメシカ被告等ハ原告ヨリ其記者ナリトシ原告ノ家宅ヲ搜索シ其書籍類ヲ差押ヘタル所爲ハ不法ナリトシ損害要償ノ訴ヲ爲シタルニ被告ハ之ニ應スルノ責任ナシ且國務大臣ノ命令ニ出テタルモノナレハ不法ナラサル旨答辯シタリ

原告代言人曰本件ノ來タスヘキ結果タル獨リ原告ノミナラス遠シ公衆ニ及フモノトス若シ被告ノ所爲ヲシテ不法ナラサラシメハ英吉利法律家ノ所謂人ノ住宅ハ其城廓ナリトノ格言其實ヲ失ヒ國務大臣ノ爲メ人民ノ自由ヲ蹂躪セラル、ニ至ルヘシ原告ハ有罪ノ申渡夫受ケタルコトナクシテ罰セラレタルト同様書類ヲ

差押へラレタルモ之ヲ回復スルニ由ナキノ害ヲ蒙リタルモノナリ其何者タルヲ指定セズシテ人ノ書類ヲ搜索スル如キ命スルカ如キ漠然タル令狀ハ法律ノ許サレトコロナリ若シ本件ノ處爲チシテ適法ナルモノトセンカ容易ニ人ノ書類ヲ差押へ易ク之ヲ告發ノ具ト爲スニ至ルヘシ況ンヤ原告ハ衆議員ナルヲ以テ其有スル書類ハ特別ノ保護ヲ受クヘキモノナリトス其中ニ一私人ノ目ニ觸レシムヘカラサル機密ノ書類アルヘキヲ以テナリ之ヨリシテ考フルトキハ本件ノ處爲ハ獨リ原告ノミナラズ英吉利憲法ヲ侮辱シタルノ甚クシキモノトス又國務大臣ノ發シタル令狀ナリトシ因テ以テ本件ノ責任ヲ免カレシトスルハ被告ノ答旨ナレトモ之ヲ先例ニ照ラス本件ノ如キ令狀ハ英吉利法律ノ許サレル處ナリ此論辯ヲ支ヘンカ爲メ證據ヲ提出シタリ

被告代理人ハ被告ノ所爲ハ間違ヒナキ原告ナル記者ノ書類ヲ差押ヘントシタルモノニシテ正當ノ處爲ナルハミナラズ其令狀ハ相當官吏ノ發シタルモノナレハ原告ニ於テ其訴訟ノ基礎トスヘキ損害ノ證明アラサル旨ヲ論シタリ

裁判官ノ説明ニ曰本件ノ令狀タル別ニ書類目錄ニ附セスシテ廣ク人ノ書類ヲ搜

七

五

索スルコトヲ命シタルモノニシテ之ヲ發シタルハ國務大臣ナリ國務大臣ガコノ無上ナル權力ヲ有シコノ權力ヲ執行スルノ如何ハ一ニ之ヲ執行スルモノノ見込ニ任スルモ可ナリトセンカ人民ノ身体自由財産權利ハ地ニ落ツルニ至ルヘシ又如此漠然タル令狀ヲ發スルハ英吉利法律ノ未ダ曾テ許サレル處ナレハ國務大臣モ此權理ヲ有セサルヤ明カナリ又既ニ法律上損害アリトスヘキ理由存スルニ於テハ各件ノ狀況ニ從ヒ實地ノ損害ヨリ多額ノ賠償ヲ命スルハ法律ナリ而シテ此法律ヲ適用スルニ足ルヘキ事實存スルヤ否ハ陪審官ノ取調フヘキ所ナリトス陪審官ハ相談ノ上一千磅ノ損害金ヲ被告ヨリ賠償スヘキ旨回答シタリ

ゑんちつく對かりんぐとん (Herrick v. Carrington)

本件ハ治安ヲ害スル誹毀罪ヲ犯シタリトスル被告ノ書類ヲ搜索スルノ令狀ヲ國務大臣カ發スルニ當リ縱令其令狀中ニ被告人ノ名ヲ記スルモ亦タ不法ナルコトヲ判決シタルモノナリ

本件ノ事實ヲ案スルニ千七百六十二年原告ハ不敬誹毀罪ヲ犯シタルモノトシ國務大臣ノ一人カ本件ノ令狀ヲ發シ陛下ノ使丁ナル被告等ヲシテ其家宅ヲ搜索シ

英吉利憲法(判決例)

テ其書類ヲ差押ヘタルヲ以テ原告ハ此所爲ヲ以テ不法ナリトシ二千磅ノ損害ヲ要償シタルニ被告ハ此請求ニ應スルノ責任ナク且本件ノ令狀ハ國務大臣ノ命令ニ出テタルモノナルヲ以テ不法ナラサル旨答辯セリ

裁判官ハ古來ノ法律布告先例ニ照シ國務大臣ハ令狀ヲ發スルノ權利ヲキ旨ヲ判示シ次ニ假リニ其令狀ハ國務大臣ノ發シタルモノナルヲ以テ被告等カ之ヲ執行シタルハ上官ノ命令ヲ奉スルニ過キストスルモ被告等カ巡查ノ手ヲ借ラヌシテ自カラ之ヲ執行シタルハ不法ナリ又其差押ヘタル書類ハ之ヲ上官ノ元ニ提出セズ其書記ニ迄之ヲ届ケタルハ不法ナリ何トナレハ國務大臣ハ親シク之ヲ取調フルノ責任ヲ有スルモノナレハナリ又最終ニ本件ノ運命ヲ決スヘキ問題ナル英吉利王ノ使丁カ原告ノ書類悉皆ヲ差押ヘタルハ適法ナルヤ否ヲ案スルニ凡ソ人カ社會ノ一人トシテ居住スル目的ノ要目ハ財産ノ保護ヲ受ケンガ爲ナリ本件書類ノ如キモ財産中大切ナルモノニシテ別ニ他ノ動産不動産ト區別アルコトナシ英吉利法律ハ此財産權ヲ保護スルコト極メテ鄭重ニシテ特別ニ法律ヲ以テ定メタル場合ナル裁判執行ニ關スル差押ノ如キ時ニアラサレハ漫リニ人ノ財産ニ

手ヲ觸レシムルコトヲ許サズ若シ持主ノ認許ナクシテ其土地ニ入ルモノアリトセシカ別ニ證明スヘキ損害アラストスルモ法律ハ損害アルモノトシテ之ヲ論シ加害者ニ於テ之レカ答辯トスヘキ相當ナル理由ヲ陳述セシム若シ本件ノ如キ場合ニ於テ國務大臣ハ見込次第人ノ書類ヲ差押ヘルノ權力アルモノトセンカ人其生ヲ安ニスルヲ得ス縱令罪ナキモノナリトスルモ差押ヘラレタル書類ヲ以テ有罪ノ證ト見做サレ遂ニ逃カル、處ナキニ至ルヘシ又一モ權義スヘキノ證アラサルニ此證ヲ得ンカ爲メ此權理ヲ亂用スルコトアルニ至ルヘク茲ヲ以テ英吉利法律ハ之カ保護ヲ設ケタルナリ其他千六百年代ノ革命中ニ起リタル例ヲ引キ本件ノ差押ヘテ適法ナリトスルノ證ニ供セント欲スレトモ之レ皆ナ今判示スル處ヲ確メタルニ止マルモノニシテ一モ其反對ノ證據トスヘキ者アルコトナシ當裁判所ハ誹毀罪ヲ保護セントスル者ニ非サルハ勿論ナレトモ若シ本件ノ如キ道ニ依リ問罪ノ證據ヲ搜索シ得ルモノトセハ政府ヲ設ケ置キナカラ人民保護ノ道ヲ盡スニ由ナク英吉利法律ノ所謂何人タリトモ己ヲ罪スルノ舉證ヲナスニ及ハストノ規則ハ其要ナキニ至ルヘシ茲ヲ以テ本件ハ原告ノ勝訴タルヘキモノトス

右ノ裁判アリタルト同時ニ議院ニ於テハ漠然タル令狀ヲ用ユルコトノ適法如何
 ナ論シ決議シテ曰若シ誹毀罪ヲ犯シタリトスル書面ノ記者印刷者若シクハ發行
 者ヲ差押ヘントスルカ又ハ其書類ヲ差押ヘンガ爲メ發シタル漠然タル令狀ヲ議
 員ニ對シ執行スルコトアルトキハ衆議院ヘ特權ヲ犯シタル不法アルモノトス
 右ノ判決例ト議決ヨリシテ案スルニ國務大臣ノ發シタル漠然タル令狀ハ議員ニ
 對シテモ平民ニ對シテモ不法ナリトスルハ英吉利法律ニシテ政治ノ大家バるク
 氏カ謂ヘル如ク友誼職業執レテ問ハス其機密ハ英吉利法律ノ犯サ、ル所ナリト
 ハ是レ之ヲ稱スヘキモノナリトス今再ヒ右ノ三件ニ依リ判定アリタル所ヲ畧示
 センニ曰君主ハ自身カラ若シクハ其言ヲ以テ人ヲ執ヘ若シクハ之ヲ執ヘルコト
 ナ命スルノ權ナキモノトス適法ナル式ニ從ヒ罪狀ヲ明示シタル令狀ヲ發スルノ
 權理アレトモ是レ只メ果シテ此令狀ヲ用ユルノ理由存スルヤ否ヲ取調ヘルカ爲
 メニスルノ場合ニ限ルモノトス樞密顧問官若シクハ國務大臣ハ此令狀ヲ發スル
 コトヲ委任セラレトモ獨リ反逆罪アルノ場合ニ限レルモノニシテ將ニ罪セラ
 レントスルモノハ書類ヲ差押ユルカ如キハ其委任以外ノ事ナリトス

又人ノ信書ヲ開封スルノ惡風ナキニ非カリシモ是レ唯罪人ヲ搜索スルカ若シク
 ハ贖物ヲ發見スルニノミ用ユルコトヲ許シタルニ止リ之ヲ行ハノニハ必ズ法律
 カ殊ニ定メタル規則ノ式ヲ踏ミ其手續キヲ守ラサルヲ得サルモノトス
 今右三件ト參照ノ爲我帝國憲法ノ規定ナル處ヲ擧ケンニ即チ
 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外其許諾ナクシテ住所ニ
 侵入セラレ及搜索セラレ、コトナシ
 伯爵伊藤博文氏ノ義解ニ曰ク本條ハ住所ノ安全ヲ保明ス蓋家宅ハ臣民各個安棲
 ノ地タリ故ニ私人ニシテ家主ノ承諾ナクシテ他人ノ住所ニ侵入スルコトヲ得サ
 ルノミナラス警察司法及收税ノ官吏民事又ハ刑事又ハ行政ノ處分ヲ問ハス凡テ
 法律ニ指定シタル場合ニ非スシテ及法律ノ規程ニ依ラスシテ臣民ノ家宅ニ侵入
 シ又ハ之ヲ搜索スルコトアレハ總テ憲法ノ見テ以テ不法ノ所爲トナス所ニシテ
 刑法ヲ以テ論セサル、コトヲ免レサルヘキナリ 刑法第百七十二條
 第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外信書ノ秘密ヲ侵サル、
 コトナシ

伯爵伊藤博文氏ノ義解ニ曰ク信書ノ秘密ハ近世文明ノ惠賜ノ一タリ本條ハ刑事ノ檢探又ハ戰時及事變及其ノ他法律ノ正條ヲ以テ指定シタル必要ノ場合ノ外信書ヲ開披シ又ハ破毀シテ以テ其ノ秘密ヲ侵スヲ許サ、ルコトヲ保明ス

右ノ如ク英吉利法律ハ官吏カ法律ニ違ヒ人民ノ權利ヲ侵害スルヲ戒メ之ヲ犯シタル者ハ右三件ノ如ク損害要償ノ責メニ任セサルヘカラサルモノトシタレトモ官吏カ法律ニ從ヒ職務ヲ行フニ當テハ相當ニ之ヲ保護スルコト公益上望マシキコトナルヲ以テ其道ヲ盡シタリ

第一官吏カ職務上爲セル事柄ニ付取結ヒタル契約ノ責任アルヤ否ヲ論ゼシニ凡ソ國務大臣カ其管理省内ノ定額金ヲ請取り會計軍吏カ軍務會計等ノコトヲ掌トル等ノ如キ皆獨リ政府ニ對シ其責任ヲ負ヘルモノナルヲ以テ縱令其中ヨリ支出シテ受取ルヘキ請求ノ權利ヲ有スル一私人ハ親シク右官吏ノ一私人ナル資格ニ對シ之ヲ訴フルノ權利ナキモノトス是レ官吏カ其職務ヲ行フニ當リ障礙セラレズ安心シテ之ヲ行ハシメシカ爲ナルノミナラス若シ斯ノ如キ場合ニ於テ之ヲ許ス者トセハ之レカ爲メ其職ヲ奉スルノ人ナキニ至ルノ憂アルヲ以テナリ

第二同シク官吏カ私犯法上ノ責任如何ヲ論ゼシニ其故意若シクハ不正ヨリ人ヲ害セントスルニ出テタル場合ノ外ハ其責任ヲ有セス其責任ヲ負ヘキ場合ニ於テハ被害者ヨリ出訴セラル、時ハ之ニ答辯セサルヘカラズ唯政府カ此官吏ニ辨償スルノ義務アル場合存スルコトアルヘシ此場合ハ縱令惡意若シクハ不正ノ所爲ニ出テサルモ條理上被害者ハ實ニ其權利ヲ犯サレタルモノトスヘキノ場合ニナルカ故ニ之ニ救正ヲ與フルコト相當ナリトスヘキ時ニ限ルモノトス若政府ニ對シ過誤失錯ノ所爲ヲ以テ論スヘキ場合ニ於テハ政府ハ官吏ナル一私人ニ對シ民事ノ訴訟ヲ起スヘキ位置ニアラサルヲ以テ刑事ノ手續ニ依リ之ヲ審判スヘキモノトス

第五回

ひる對びつぢ (Hill v. Bigge)

本件ハ英國領地ノ知事ハ英國島内ノ知事ト違ヒ君主ヲ代表スルコト一層重キモノナレトモ其一身ノ責任ニ就テハ尙ホ其他ノ裁判所ニ於テ訴ヘラル、ノ責任アルヲ判定シタルモノニシテ其事實ハ近頃英國ノ領地トナリタルつりにたつと

ノ知事ナル被告ハ其受任前ろんどんニ於テナシタル賣捌代金ノ訴訟ヲ受タル處
 同地ノ裁判所ハ其責任アル旨裁判シタルニ依リ被告ハ上訴シテ同裁判所ノ管轄
 權ヲ爭ハントスルモノナリ
 被告代言人曰被告ハ英吉利王ヲ代表シ其島内ノ政治ニ就テハ民事刑事共ニ一切
 之ヲ處置スルノ全權ヲ有スルモノニシテかなだ領地ノ知事若シクハあいやらん
 知事ト同様ナル位置ニ居ルモノナルヲ以テ本件ノ場合ニ於テ訴ヘラル、モ
 ノトセハ其義務ヲ盡スニ道ナリ己レ自カラ曰裁判所ノ爲メ執ヘラル、コトアル
 ニ至ルヘキヲ以テナリ是レ判決諸例ノ示ス處ナリトス
 原告代言人曰被告ノ論スル所ハ一モ英吉利法律ニ適セサルノミナラス本件ヲ多
 少支配スヘキいすばみやノ法律ニモ少シモ適セサルモノトス即チ其論辨ハ凡ソ
 殖民地ノ知事ハ其支配スル地ニ於テハ契約等總テ民法上ノ義務ヲ免カル、モ
 ノナリトシ而シテ之ヲ支フルノ點ハ君主ト知事トナ同視シタルニ在リト雖モ固
 ト君主ト知事ハ同權ヲ有スルモノニアラス且君主ト雖モ被告カ知事ニ與ヘン
 トスルカ如キ非常ノ特權ヲ有スルモノニアラストテ數例ヲ引キ要スルニ原告ノ

二一

二六

二七

答弁ハ法律ニ適スルモノニアラスト論斷セリ
 裁判官ノ説明ニ曰被告ハ君主ヲ代表スルモノナルカ故君主カ有スル特權ノ保護
 ヲ受ケル位ニ居ルノミナラス若シ此訴訟ヲ受クルモノトセハ遂ニ裁判ノ執行ニ
 付其管下ノ裁判所ニ捕縛セラル、ノ事アルヘシト云フニアレトモ君主ト雖トモ
 如斯非常ナル特權ヲ有スルモノニアラス民事ノ責任上英吉利裁判所ニ於テ被告
 トシテ訴ヘラル、ノ責任ヲ免カル、ヲ得ス况ンヤ訴訟ノ被告トナルト其結果ト
 シテ捕縛セラル、トハ判別シ得ヘキ事柄ニシテ現ニ法律カ特別ニ之ヲ保護スル
 ニ於テオヤ加之英吉利裁判官ト雖モ其一身ノ責任ニ就テハ其裁判官タル裁判所
 ニ於テ訴ヲ受ケルコト常ナルニ於テナヤ茲ヲ以テ被告ハつりまたつと裁判所ニ
 於テ訴ヘラル、ノ責任ヲ免カル、ヲ得サルモノトス此事件ニ就テハ尙ホ研究セ
 ントスルモノアラハふとぶりかす對もすちん (Fabregas v Mostyn Smith Leading case 628,9
 th Edin) 及かめろん對らいと (Cameron v. Ryte) 及すすくれー對バゆりとー (Ma-
 grave v Puhido 5 L. R. a. c. 102) 及スうのび對あやー (Philips v Eyre 4 R. 2 B. 225) ヲ參照
 スヘシ

右ハ民事上行政官責任如何ヲ論シタルモノナルカ刑事上モ同一ニシテ若シ君主ヨリ命セラレタル委任ノ權限ヲ出テ刑事ヲ以テ論スヘキ事柄ヲ犯スコトアルトキハ尙ホ其責任ヲ免カル、ヲ得サルハ勿論ナリトス之ニ就テハれじやい否對办ヤー (Reg v. Elyne) ヲ參照スヘシ

サットン對ジョンストン (Sutton v. Johnstone)

本件ハ海陸軍士官責任如何ヲ示スモノニシテ海軍ノ司令官相當ノ理由アラサルニ故意ヲ以テ其部下ノ士官カ職務ニ背ケルトテ之ヲ軍法會議ノ裁判ニ附ズルモ爲メニ其士官ヨリ民事裁判所ニ訴ヘラル、ノ責任アラサルモノナル事ヲ裁判シタルモノナリ

本件ノ事實ヲ案スルニ原告士官ハ被告司令官ノ部下ニ在テ戰爭ノ服役中被告ハ原告ニ於テ其命令ヲ奉セス且ツ卑怯ナル所爲アリタルモノトシ之ヲ監禁シ且漫リニ長ク軍法會議ノ審判ニ附セスシテ放棄シ置カレタルニ依リ原告ハ耻辱ヲ受ケ且其職位ニ關スルノ利益ヲ失フタルモノトシ損害要償ノ訴ヲ起シタルニ被告ハ右所爲タル其職權上ナセルモノニ過キサレハ責任ナキ旨答辯シタリ

始審ノ裁判ハ若シ被告ノ所爲タル相當ノ理アルニ出テ相當ノ範圍内ニ於テ之ヲ行フタルモノトセハ其答辯ノ如シト雖モ其權限ヲ越ヘ之ヲ亂用スルニ至テハ其答辯ヲ支ヘントスル理由カ保護スヘキ限リニアラス被告ハ故意ヲ以テシタルコト明カナレハ本件ノ責任ヲ免カル、ヲ得サルモノトス又果シテ原告ニ過失アリタルモノトセハ可成速ニ即チ相當ノ期限内ニ於テ之ヲ審判ニ附スヘキカ相當ナルニ事茲ニ出テサリシハ不法ナルヲ以テ被告ハ原告ノ要求スル損害金ヲ支拂フヘキモノト言渡シタルニ之ニ對シ上訴アリタリ

裁判ニ曰凡ソ士官タルモノハ司令官ノ命令ヲ奉スヘキハ其職分ニシテ其當否如何ハ士官ノ判別スヘキ處ニアラス必スヤ之ヲ奉シテ進退セサルヲ得ス之ヲ奉セサルノ理由トスヘキハ之ヲ奉セントスルモ實地之ヲ奉スルコト能ハサルノ理由アル場合ニ限レルノミ而シテ司令官ハ其命ニ背ケルモノヲ軍法會議ニ附スルハ法律ノ命スル處ニシテ其之ヲ審判ニ附シ若シクハ之ヲ監禁シタルノ當否如何ハ一ニ審判ニ依リ定マルモノトス又本件ノ如ク司令官カ軍法會議ヲ開クコト能ハサル場合ニ於テハ是亦タ損害要償ノ理由トナスニ足ラス又海軍技術ノ事タル普

通裁判所ノ審判ヲ得ヘキ事柄ニアラサルノミナラス其訴訟ノ當否如何ヲ定ムル
 モ其管轄ニ歸スヘキハ勿論ナルヲ以テ元來本件ハ當裁判所ノ受理スヘキモノニ
 アラス果シテ原告ノ審判ニ附セラレタルハ不法ナリトセンカ之ヲ決スルハ固ヨ
 リ軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノトス是レ海軍法律ノ定メタル處ナルノミナラス
 當裁判所カ之ヲ許スモノトセハ軍法會議ノ裁判ニ就テハ常ニ損害要償ノ訴其跡
 ナ絶々サルヘキヲ以テナリ依テ本件ハ之ヲ棄却ス後此裁判ハはラズとふる
 与スニ認可セラレタリ

右ノ外海陸軍士官ノ職務上取扱フタル事柄ニ付キ契約ノ責任如何ヲ案スルニヤ
 くびす對はるぢやんと(Macbees v Haldimand)ノ如キ元來右様ノ責任存セサルコト
 ニ就テハ爭アラサリシモ被告カのおだー陸軍司令官トシテ軍用ノ物品ヲ誂ヘ且
 行爲上恰モ自カラ其責任ヲ負ハントスルカ如キ證據アリタルモ尙ホ其一身ノ責
 任ナキ旨裁判アリタリ此點ニ就テハばるまー對はつちんそん(Palmer v Hutchinson
 L. R. G. A. Q. 919)ヲ參照スヘシ

又其私犯法上ノ責任ニ就キ之ヲ案スルニ第一其部下若シクハ同僚ノ士官ニアラ

サルモノヨリ訴ヘラレタル場合ニ於テハ其正意ヲ以テ行フタルニ出テタル者ヲ
 ラシメハ其一身ノ責任ヲ負擔スヘキニ非ズ例令ヘハ當直士官ノ處分其當ヲ得サ
 ルカ爲メ衝突ヲ來シタルカ如キ其船長責任ナキモノト判決アリタリ船長ハ君
 主カ撰任シタル士官ヲ指揮スルモノニシテ身自カラ之ヲ撰任スルモノニアラサ
 レハ其士官ノ如何ハ其取捨シ得ヘキ處ニアラスシテ通常ナル本人代人ノ關係ヲ
 以テ論スヘキモノニアラサルヲ以テ縱令其關係セサル場合ニ於テ士官カ他人ニ
 損害ヲ被ラシムルコトアルモ其責ニ任スヘキモノニアラサルハ勿論ナレハナリ
 又英吉利政府ニ雇レタル二艘ノ船アリシカ其一ハ指揮船ノ命令ヲ奉セサリシヨ
 リ他ノ船カ衝突ノ損害ヲ受ケ之ヲ請求セントシタルモ元來軍用ノ爲メ雇レタル
 船ハ指揮船ノ命令ヲ奉スルコトヲ暗約シタルモノナルヲ以テ右ノ損害ヲ與ヘタ
 ル船ノ船長ハ之ヲ辨償スルノ責任ナキモノトセリ之ニ反シ英吉利軍艦々長カ奴
 隸鎮壓條令ニ依リ奴隸ヲ鎮壓セントシナカラ果シテ其差押ヘタル船ハ奴隸賣買
 ノ業ニ従事スルモノナルヤ否ヲ取調ヘサルノミナラス之ヲ差押ヘタルト一同條
 令ノ命スル審判ニ附セスシテ故意ニ之ヲ燒捨テタルノ損害ニ對シテハ艦長自カ

ラ此責ヲ負擔セサル可カラサルモノトセリ
 次ニ司令官ハ右ノ責任ナキモノトスルモ君主ハ其責任ヲ負擔セサル可カラサル
 ヤ否ヲ案スルニ海陸軍ノ士官ハ陛下自カラ之ヲ撰任スルニアラス法律ノ命スル
 處ニ由リ陛下ニ對シテ責任ヲ負ヘル相當官吏カ之ヲ撰任シ斯ク撰任セラレタル
 士官ハ法律ノ命スル處ヲ行ハシカ爲メ其職ニ從事スルモノナリ且驛遞總官ノ如
 キ其職務上自カラ撰任シタル者ノ過失ニ關シテモ責任ヲ負擔セサルハ法律ナリ
 其然ルハ凡ソ法律カ命シタル事項ヲ行フモノハ其法律カ命スルニ出タルモノニ
 シテ之ヲ撰任シタル者ハ自カラ好シテ之ヲ撰任スルニアラサルヲ以テ法律ハ之
 ニ關シテ生ズルノ損害ヲ辨償スヘキ責任ヲ負ハシメサルナリ且斯ノ如キ場合ニ
 於テ損害ヲ被リタルモノカ一々損害要償ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノトセハ公益上不
 便少ナカラザルヲ以テ英吉利法律ハ之ヲ許サ、ルモノトス
 第二士官ヨリ上官ニ對スル損害要償ノ權利如何ヲ案スルニ長官カ身体黜陟ノ權
 利ヲ有スル場合ニ於テ自カラ其士官ヲ黜進シ或ハ主務大臣ト共議シテ之ヲ取扱フ
 タル場合ノ如キ其殊ニ故意ニ出タリトノ證明アルモ民事裁判所ニ於テ訴ヘラル

三三

、責任ナシ其當否如何未定ムルハ一ニ軍法會議裁判所ノ獨リ能ク取調ヘキ處ニ
 シテ其管轄ニ屬スルヲ以テナリ此點ニ就テハどうさんす對スルをばいれつと
 (Dawkins v. Lord Paulet. L. R. 5. Q. B. 94.)及どうさんす對スルをばいれつと (Dawkins
 v. Lord Rokaby. L. R. 8 Q. B. 225)ニ參照スヘシ

又外國領地ノ知事カ軍事ヲ指揮スル場合ノ如キ其職務上取扱フタル事柄ノ當否
 如何ヲ定ムルハ一ニ實地ノ狀況ニ照ラシ其處分ハ實地ノ必要ニ出タルモノナル
 ヤ否ヲ判決スルニアリ若シ其事必要ニシテ止テ得サルニ出ツルモノトセンカ如
 何程人ヲ害シ其權利ヲ妨クルコトアルモ其所置チ不當トスルコトヲ得ス已ニ必
 要ナル處置トセンカ多少其度ヲ越ユルコトアリトスルモ之カ爲メ果シテ害アル
 ヤ否ヲ舉證スルノ責任ハ請求者ニアリトス

けんぶ對ねびる (Kemp v. neville)

本件ハ凡ソ裁判官カ其管轄内ノ事項ニ付相當ノ注意ヲ盡シテ取扱フタル裁判ニ
 付訴ヘラルヘキモノニアラス又此訴ニ於テ其判定シタル事實ヲ覆審スルヲ得サル
 モノナリトノコトヲ判決シタルモノニシテ其事實ハ元來ねつくすふれると大學

總長ハけむりつち同様其大學區内ノ訴訟事件ニ關シテハ民刑共ニ之ヲ裁判スルノ權利ヲ有シ原告ハ風儀惡シキ女ナリト疑ヒ被告ハ總長ノ資格ヲ以テ之ヲ捕ヘ裁判ニ附シタルハ漫リニ監禁シタルモノナリトテ原告ハ損害要償ノ訴ヲ爲シタルモノナリ

裁判官ノ説明ニ曰本件ハ得ると裁判長カ判決シタル先例ノ通りるんぞん醫學協會カろんぞんニ於テ醫業ニ從事スル者ヲ取締ル規則ニ依リ同協會カ右ノ規則ニ觸レタル者ヲ取調ヘ禁獄ニ處シタル場合ニ於テ凡ソ裁判官ノ資格ヲ以テ其有スル權限ヲ守リ取調ヘテ爲シタル者ハ不法監禁ノ訴訟ヲ受ヘキモノニ非ストシタルト同シク本件ノ被告モ裁判官タル資格ヲ以テ取扱フタル處爲ニ付キ本訴ヲ受シヘキモノニアラス且斯ク取調ヘテ判決シタル事實ノ如何ハ再ヒ玆ニ之ヲ覆審スヘキモノニアラス何トナレハ別ニ不正ナルコトノ理由アルニアラスノハ其歸着シタル事實ノ判定ハ之ヲ左右スヘガラサルハ公益上變較スヘガラサルノ道理ナルヲ以テナリ

右げんぶ對ねびるノ裁判シタルハ獨リ上等ナル裁判所ノ判事ニ關シテ判定アリ

三 二四

タルモノト知ルヘシ下等ノ裁判官ニ至ルマテ必スシモ此責任ナシト云フコトヲ得スるゝるといふちやんせろる高等裁判所ノ判事ハ皆ナ此保護ヲ受クルモノトス次ニ殖民地ニ於テ其等ノ人ノミチ裁判スルノ管轄權アル判事ノ位置ヲ案スルニ判事カ眞ニ其取扱フタル事件ノ相手一人ニ對シテハ管轄權ヲ有セサルコトヲ知ラサル場合ニ於テハ其之ヲ知ルヘキ筈又之ヲ知レルコトノ事實ヲ學證スルノ責任ハ請求者ニアリトセリ是其保護ヲ擴張シタルニ出ツルモノニシテ之ヲ證明スルコト能ハサルニ於テハ損害要償ノ權利ヲ證明シ能ハサルモノトセリ其他身代限取調委員ナル裁判官檢察官モ英吉利判事長ノ命令ヲ奉シ取調ヘルモノナレハ同一ノ保護ヲ受クルモノトセリ之ニ反シ地方裁判所裁判官からんていりうとちやつじCounty Court Judge)じやつすちすれふびー(Justice of Peace)ノ場合ニ於テハ先ツ此保護ヲ受クヘキ權利ナキモノトスルノ推測ヲ以テ之ヲ論シ此推測ヲ覆サシトスルモノハ特ニ其保護ヲ受クヘキノ理由ヲ證明セサルヘガラサルコトハセリ右ノ官吏ハ特別布告ノ規定ニヨリ撰任セラレタルモノニシテ其管轄權ニ自ラ制限アルモノナルヲ以テナリ

英吉利憲法(判決例)

凡ソ裁判官ハ其取調上發言シタル言語ニ妥當ナラサル所アリテ他人ノ場合ニ於テハ誹譏ヲ以テ論スヘキモノナルモ裁判官ノ爲メニハ法律上通常ノ誹譏罪ヲナスヘキ惡意ヲ其言語ヨリ推測セルヲ以テ斯ク誹譏セラレタリトスルモノハ之ニ付キ訴フルコトヲ得サルモノトセリ何トナレハ公益上裁判官ヲシテ人ニ訴ヘラル、カ如キ異懼ナカラシムルコソ必要ナルヲ以テナリ

其他凡ソ裁判官ハ其過誤失錯アラサル限りハ之ヲ任免セサルヲ以テ例トスレトモ其職權外ヘ出テ故意ニ人ヲ害セン爲メ誹譏ノ罪ヲ犯シタル場合ノ如キハ他人同様法律ヲ以テ之ヲ論スヘキモノトス

英吉利法律ハ裁判官カ法律ニ從ヒ自由ニ其職ニ從事スルノ道ヲ計リ凡ソ公廷ニ於テ不敬ノ言ヲ發スルカ其他其職掌ヲ害スルコトアルトキハ之ニ對スルニ相當ノ處分ヲ以テシ又裁判上ノ取扱振ヲ誹譏スルカ如キモノニ同シ之ニ反シ裁判官カ賄賂ヲ取ルカ如キハ堅ク裁判官ノ德義上禁セラレタルモノニシテ裁判官ノ職務タル如何ナル場合ニ於テモ唯法律ノ明文ト之ヲ適用スルニ依ルヘキノ法律ニ基キ其職掌ヲ盡スヘキモノニシテ其行フヘキ法律ノ利害得失如何ハ其關係ス

〜キ處ニアラスるゝと云ふんすゝいゝる也ハ英吉利裁判官ノ獨立廉潔ナルヲ示シタル言ニ曰我判事ハ國王ヲ恭ヒ又人民ヲ敬ス如何ナル事柄タリトモ君主若シツハ人民ノ私意ニ出ツルモノハ我判事ノ欣慕スル處ニ非ス我判事元ヨリ名望ヲ好マサルニ非ス然レトモ其希望スル處ハ我ニ從フモノニ在リ我追フテ之ヲ得ント欲スルモノニアラサルナリ我ニ從フタルノ名望ハ正道ニ依リ我職ヲ盡スニ當リ何レノ日カ我ヲ助ケサル者ナラサルハナシ如何ナル事柄タリトモ我良心ノ禁スルモノハ幾程萬民之ヲ譽メ新聞之ヲ稱譽スルモ我判事ノ爲サハル處ナリ若シ我良心ノ正道ナリト我レニ告グルモノナリトセンカ爲メニ幾許ノ誹譏ヲ受ケ幾多ノ人心ヲ害スルコトアルモ我之ヲ避ケサルナリ是ヲ以テ英吉利判事ノ獨立ナル其法律ノ保護スル處ニ耻チサルヲ證スルニ足ル

右判決諸例ノ示シタル處ニ就テハ我國未ダ之ヲ定タルノ法律若クハ判決例アラサルニ因リ之ヲ參照スルニ由ナケレトモ刑法第三百三十九條ヨリ始マル第三章靜謐ヲ害スル罪ノ中其第二節ニ定ムル如キハ是其一ナリト知ルヘシ

第六回

英吉利憲法(判決例)

前回迄ハ臣民カ君王ニ對シ及政府ニ對シテノ關係ヲ講セシヲ以テ是ヨリ臣民カ上下兩院ニ對スル關係ヲ講セシニ兩院ハ立法部ニシテ新法律ヲ設ケ及現存セル法律ヲ廢スルヲ得ルノ大權ヲ有スル處ナルヲ以テ之レカ臣民ニ對スル關係ハ又一種特別ノモノアリトス即チ以下此大權力ヲ有ス集會カ如何ナル影響ヲ英國臣民ニ及ホスカヲ觀察スヘシ

ばーぢすどん對そーじ (Barnardiston v. Soame)

本件ハ衆議院ノ撰舉長カ故意ヲ以テ誤リタル撰舉ノ報告ヲ爲シタルカ爲メ害ヲ被リタル被撰舉議院ハ普通裁判所ニ於テ損害要償ノ訴ヲ受クヘキ責任ナキモノナルコトヲ判示ス其事實ハ被告之るり即チ撰舉長ハ原告ハ實ニ多數ヲ以テ撰舉セラレタルモノナルニ被告ハ他人カ撰舉セラレタルモノトシ報告ヲ爲シタルヨリ原告ハ其正當ニ撰舉セラレタル權利ヲ回復センカ爲メ多額ノ入費ヲ費シテ後漸シ議員トナルヲ得タリト云フニアリテ原告ハ被告ニ對シ損害要償權ヲ主張スルニ在リ而シテ本件ハ我衆議院撰舉法ニ定ムル處ニ匹適シ其第八章ニ定メタル職務ニ對シ撰舉長カ其職ヲ盡サ、ルニ當リ之ヨリ生スル損害ノ責任ヲ負擔

スヘキモノナリヤ否ノ場合ニ起ルヘキノ問題ナリトス
裁判官ノ説明ニ曰ク之りふカ衆議院議員ノ撰舉會ニ於テ投票ノ當否ヲ定メ之ヲ議員ニ報告スルニ當テハ其職位高等裁判所ノ判事ト同一ニシテ萬事其見込ヲ以テ判定シ之ヲ議院ニ報告スヘキモノトス又撰舉ノ當否トシ之りふノ撰舉取扱振リ如何ハ衆議院獨リ之ヲ定ムルノ特權アルヲ以テ假リニ不當ナルコトアリトスルモ普通裁判所ノ審判スヘキ所ニアラス況ンヤ本件ノ場合ニ於テハ衆議院カ原告ノ撰舉ヲ正當ナリト判定スルニ當リ一モ被告ノ處爲ナ非議シタルニ非ス之ヲ召喚シテ審問ヲモ爲サ、ルニ於テオヤ又本件ノ如ク撰舉投票ノ結果疑ハシキモノナリトシ兩名ノ撰舉アリタリトシ報告ヲナシタル如キハ固ヨリ相當ノ事ナリトス何トナレハ凡ソ撰舉ノ場合ニ於テハ競争者各其撰舉セラレシコトヲ望ミ好結果ヲ欲スルハ常ナレハ之カ爭アルハ常事トナサ、ル可カラス且事ヲ判定スルノ職ニ居ルモノハ何レノ理由カニ依リ相當ナリト見込ム處ニ於テ之ヲ判定セサル可ラス之ヲ判定シタルカ爲メ過誤アリトスルモ之ヲ非議ス可カラサルハ他ノ高等裁判官ニ於ケルト同一ナリトス又原告ハ被告カ爲シタル報告ノ爲メ幾日カ

議員ノ職ニ從事スル事ヲ妨ケラレタリトスルモ元來議員ハ其一身ノ爲メニアラズ天下ノ爲メニ撰舉セラル、モノナレハ原告ハ之カ爲メ被ル可キノ損害アリトスルヲ得ズ況ンヤ當否ヲ判定スルコトノ延引シタルハ被告ノ所爲ニ基クニ非ス衆議院カ取調ヲ爲スニ時日ヲ消シタル爲メニ出ツルモノナルニ於テヤ又我布告ヲ參照スルニヘン¹第六世王ノ時ヨリ衆議院ノ撰舉ニ關シシエリ²カ不實ノ報告ヲ爲シタルモ之ヲ普通裁判所ニ訴フルコトヲ得サルモノトシ今ニ至ルマテ之ヲ取消シタルノ布告アルヲ知ラス其他衆議院ニ關スル事ノ當否如何ヲ普通裁判所ニ訴ヘントスルカ如キハ英吉利法律ニ新奇ナル救正法ヲ設ケントスルモノナルノミナラス此大權ヲ有スル官府ノ事ニ關シ自カラ之ヲ判定セシメス普通裁判所カ之ニ干涉スルコトアリトセハ其結果タル人心ノ安否ニ關スルコト少カラサルノミナラス撰舉長トナルノ人ナキニ至ルヘキヲ以テナリ

右ノ判決ニ對シハ³ス、おふろ⁴ト⁵トす裁判所へ上告アリタレトモ認可セラレタリ其後衆議院ハ不實若シクハ不正ノ報告アルカ又ハ投票ヲ與ヘ若シクハ之ヲ得セシムルコトニ關シ金錢等ヲ授受シタル者アリテ此等ノ事アリタルカ爲メ損害ヲ

被リタルモノハ⁶ス、と⁷にすた⁸高等裁判所へ出訴スルコトヲ得トノ法律ヲ定メタリシカ是レ我衆議院議員撰舉法第十三章ノ定ムル所ニ匹適スルモノトス然レトモ此法律タル唯故意ヲ以テ不當ナル取扱アリタルノ時ニ限ルモノトシテ決シテ之カ爲メ撰舉長ハ一々如何ナル場合ニテモ此様ナル訴訟ヲ受クルモノナリト爲スヘカラス

右ニ論シタル所ニ就キ尙ホ之ヲ推究スルニ立法議院ハ第一立法ノ事ヲ掌トリ第二之ヲ行フカ爲メ必要ナルノ特權ヲ有シ第三國內最終ノ裁判所トシテ司法ノ事ヲ掌トルモノナリ其第一第二ノ事タル全ク議院内ノ慣例ト規定ニ依リ之ヲ處理シ第三ハ英吉利ノ法律ト慣例ニ依リ之ヲ處理スルモノナリトス而シテ其立法ノ事ニ關シ議員撰舉ノ事等ニ就キ之ヲ定ムルハ一ニ議院ノ慣例ト規定ニ依リ處分スヘキモノトス然レトモ此慣例内規ハ議院内ニ於テノミ此効力ヲ有スルモノニシテ議員カ爲セル行爲又ハ議員ニ對シタル行爲ノ如キ議院ノ内ニ於テスルト其外ニ於テスルトノ區別アリ又其内ニ於テスルモノナリトスルモ其所爲議院ノ故意ニ出テタル場合ハ之カ爲メ議員タルノ名ヲ冠シ其責任ヲ免カル、コトヲ得ス

彼ノ議員ハ議院内ニ於テ言論ノ自由アルハ勿論ナレトモ之ヲ乱用スルハ許サ、
 ル處ニシテ我帝國憲法ニモ定メタル通りナリトス而シテ議員カ故意ニ爲シタル
 事柄ノ當否ハ普通裁判所ノ判定スヘキ處ナリトス唯議院ニ當然屬スヘキ事項
 ナル彼ノ撰舉ニ關シ投票セントスルモノカ投票權ヲ妨ケラレタルニ就キあしゆ
 ベー對¹シ²ト(Ashby v. White Snibe. S. Leading Cases)ノ如キ原告ハ此妨ケラレタル
 權利ヲ回復センカ爲メ普通裁判所へ出訴シタル處普通裁判所ハ之ヲ受理シタル
 カ英吉利憲法ニ依ルニ前文ニ所謂立法議院ノ司法職ハ貴族院ニ屬スルヲ以テ衆
 議院ハ貴族院カあしゆべーノ事件ヲ裁判シタルハ衆議院カ獨リ自カラ判決スヘ
 キモノナリトノ特權ヲ冒シタルモノトシあしゆべーハ衆議院ニ對シ不敬ノ罪ア
 ルモノナリ其他如何ナル場合ニ於テモ衆議院ノ事ニ關シ普通裁判所ニ訴フルモ
 ノハ結局衆議院ヲシテ貴族院ノ管轄ニ服セシムルモノナルヲ以テ是レ亦不敬ノ
 罪アルモノナリ是レ衆議院ノ慣例ト規定ノ稱スル處ナリトテ此決議ヲ爲シ結局
 被告ハ普通裁判所ノ判決ニ反シ衆議員ノ撰舉ヲ妨ケタルモノナリトシ之ヲ禁獄
 ニ所シタリ其後更ニあしゆべー同様投票ヲ妨ケラレタルモノカ被告ニ對シ普通

一一
 三三

裁判所へ出訴シタルニ原告ハ衆議院ノ爲メ禁獄ニ處セラレタルヨリへびあすこ
 ーばすノ令狀ニ依リ出獄ヲ求メタルニ曩キノあしゆべー對¹シ²トノ事件ニ於
 テ被告ヲ免訴シタル判事ノ一と、ほると(Lord Holt)ハ前説ヲ取テ動カス多數ノ判
 事ト意見ヲ異ニシタルノ理由ハ凡ソ衆議院カ名ヲ其特權ニ托シ撰舉ヲ妨ケタルモ
 ノハ不敬ノ罪アリトシ禁獄ニ處セラル、モノトセハ是レ衆議院獨リ法律ヲ立ツ
 ルノ權理ヲ有セサルニ獨リ自カラ之ヲ作ルニ均シキモノナレハ我憲法ニ背キ人
 ノ自由ヲ害スルコト甚クシキモノナリト論シタリ右原告ハ多數説ニ基キ繼テ禁
 獄ニ處セラレタルヲ以テ貴族院裁判所ニ上告スルノ令狀ヲ得ノコトヲ君主ニ請
 願シタルヨリ上下兩議院間ニ爭論ヲ生シタルノ末一時閉會シタルニ依リ事茲ニ止
 ミタルカ其後普通裁判所ハパーカー¹ちすどん對¹シ²ト¹ハノ法理ヲ取テ動カス今日
 ハ撰舉ノ訴訟ハ普通裁判所ヲシテ之ヲ審判セシムルノ布告ヲ設ケタルカ故之ニ關
 シ兩院ノ間ニ此軋轢ヲ生セサルコトナレリ右ノ軋轢タル上院カ最終裁判官タル
 ノ特權ヲ有スルニ起因シ英吉利憲法上獨リ起ルノ問題ナレトモ我衆議院議員撰
 舉法カ撰舉ニ關スル訴訟ヲ扣訴院ノ管轄ニ屬セシメタルハ豫メるゝるとはると

ノ云ヘル如ク議院カ名ヲ特權ニ托シ人民ノ自由ヲ蹂躪スルノ憂ヲ妨キタルモノト云フヘキカ

すどつくでーる對はんざーる (Stockdale v. Hansard)

本件ハ凡ソ誹議トナルヘキ事柄ハ衆議院ニ開示シ其議スル處トナリ其記録ノ一部トシテ出版シ且同院ハ代議院トシテ其記録ヲ出版スルノ權理ヲ有スルハ公益上必要ナリト議決シタルモノナルモ爲メニ誹議ノ責任ヲ免カル、ヲ得ス而シテ衆議院ハ果シテ此答辯ヲ支フルニ足ルヘキ特權ヲ有スルモノナルヤ否ヲ判定スルハ普通裁判所ノ職權ナリトストノ事ヲ判示シタルモノニシテ其事實ハ原告カ出版シタル或書籍ノ其實猥褻ナル事ヲ記シ猥褻ナル書畫ヲ挿入シタルモノニシテ名目ノ如キ學術上ノ書籍ニアラスすどつくでーるハ猥褻書籍ノ出版者ナリトノ事柄ヲ報告シタル衆議院ヘノ報告書ヲはんざるとニ於テ出版シタルニすどつくでーるハ誹議ノ所爲アルモノトシ之ヲ訴ヘタルコはんざるとハ衆議院ノ決議ニ基キ其命ヲ奉シテ出版シタルモノニシテ衆議院議事ノ一部ニ過キサルモノナレハ議院ノ特權ニ出テタル正當ノ所爲ナルヲ以テ責任アラスト答辯シすどつく

でーるハ衆議院ノ特權ハ英吉利法律ヲ増減變更スルノ權力ヲ有セス又衆議院ハ英利法律ニ反スル慣例ヲ作シルコトヲ得大若シ此等ノ事ヲ爲シ得ルモノトセンカ英吉利臣民ノ權理皆ナ爲メニ蹂躪セラル、ニ至ルヘシトテ茲ニ論點ヲ結ビタリ
裁判官ノ説明ニ曰衆議院ハ普通ノ法律裁判所ニ勝レル位置ヲ有スルモノナルヲ以テ其爲シタル事柄ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬セス又被告ノ所爲ハ此衆議院ノ命令ニ基クモノナリト云フニ在ルトコロ其當否ヲ論センコはんざると代理人モ普通裁判所カ議院ノ特權ニ付判決シタルコトアルモ之カ爲メ議院ヲ緊束スルコトナシト云フニ在リテ歸スル處普通裁判所ハ此特權ノ如何ヲ論ス可カラスト云フニ在ラサレハ當裁判所カ其如何ヲ審究スルコトコはんざると代理人ノ異議セサル所ナリト思考ス依テ進ンテ之ヲ案スルコはんざると代理人ハ議院ノ命令ニ依リ其議事ヲ印刷スルコト必要ナリ是レ永ク慣例トナリタル處ナリ又人ノ未ダ曾テ之ヲ疑ハガリシ處ナリト云フニアレトモ是レ皆ナ未ダ曾テ人ノ之ヲ爭ハサルニ出ツルモノニシテ彼ノしつゝもねー訴訟事件及うゐくす對ラーど訴訟事件ノ

判定シタル處ノ如キ皆ナ英吉利憲法ノ原理ヲ説明シタルニ過キス其起訴アル以前ニ當テハ如何程此原理ヲ冒シタルモノナルヤ知ル可カラサレトモ此カ爲メ右ハ裁判所カ判決シタル不法ナリト云フモノアルヲ聞カス其當否ヲ判定スルハ固ヨリ當裁判所ノ職權内ニシテ之ヲ判決スルニハ唯タ英吉利法律ニ反シテ爲セルノ決議タル議院ノ決議ニ基ケルヲ以テ適法ナリトスルヲ得ヘキヤ否ニ在リ又議院ノ特權ハ獨リ其内ニ止マルモノニシテ議院外ニ出テ、ハ一モ効力ヲ有セサルモノトス且英吉利法律ニ依ルトキハ雇人ハ戶主ノ爲メ戶主ノ下シタル不法ナル命令ニ出タルヲ口實トシ責任ヲ免カル、ヲ得サルモノナリ

右ノ如クはんざるとノ答辯ハ相立タサルコト、ナリすとついでハ六百磅ノ損害金ヲ得タリシカ此裁判ニ基キ執行シタルしゑりふハ議院ニ對シ不敬ノ罪ヲ犯シタルモノトシ禁獄ニ處セラレタリ而シテ普通裁判所ハ其裁判通りしゑりふカはんざるとヨリ取立タル金額ヲすとついでハ支辯セシメメカ爲メしゑりふニ對シ執行狀ヲ發シタリしゑりふハ之ニ抗告セントシタリシニ裁判所ハ之ヲ拒ンテ曰しゑりふカ衆議院ヨリ責メラル、處ヲ申立テ本件ノ執行ヲ免カレントスル

ハ憐ムヘキ情アルカ如シト雖モ衆議院ノ議員カ各其財産ニ關シ完然ナル處有權ヲ有スルニ均シクすとついでハモえりふカ預リ居ル損害金ニ就テハ完然ナル所有權ヲ有シゑりふハすとついでハノ財産管護人ニ過キサルモノナリ今茲ニ執行ヲ命スルノ結果タル如何ナル不便ヲ來スモノトスルモ裁判所ハ法律ヲ行フニ止リ其見込ヲ以テ之ヲ取捨スルノ職權ナキモノナルニ依リ此執行ヲ命セサルヲ得サルモノトス

せ、えりふ、ふ、みどるせつさす、けいず (The Sheriff of Middlesex Case)

本件ハ衆議院カ同議員ニ對シ不敬ノ所爲アル者ヲ監禁スルノ權理ヲ有ス而シテ其監禁令狀ハ監禁ノ理由ヲ舉示セスシテ漠然ナル者トスルモ普通裁判所ハ之ヲ以テ監禁ヲ解クノ理由トナスヲ得ス又普通裁判所ハ監禁當否ヲ審判スルヲ得サルモノトストノ事ヲ判示シタル者ニシテみとるせつさすノしゑりふハ衆議院ノ特權ヲ犯シタル不敬ノ所爲アリトシ衆議院議長カ令狀ヲ發シテ之ヲ捕ヘタルニ依リしゑりふ等ハ「へびあす、こーばす」ノ手續ヲ以テ放免ヲ請求シ出タルモノナリ裁判ニ曰衆議院ノ發シタル令狀ハ漠然トシテ明カナラサル處ナキニアラサレト

モ同議院ノ如キ大權ヲ有シ天下ノ公議輿論ニ對シ責任ヲ帶フル立法議院ニシテ漫リニ人ヲ監禁スルノ理ナク若シ監禁ノ正當ナラサルモノトセハ之ヲ取消スニ躊躇セサルハ疑ナキノ事ナルヲ以テ當裁判所ハ其當否ヲ審判スルコト能ハサルモノトス况ンヤへびあすこゝばす令狀ノ請求者ハ誓書ヲ以テ其請求ヲ支フルコト必要ナレトモ之ニ對スル回答ハ令狀アレハ足レリトスルコト英吉利法律ノ定ムル所ナルヲ以テ本件ノ監禁ヲ解クヲ得サルモノトス

右ノ後千八百四十九年布告ヲ以テ何人ニテモ議院ノ議事ヲ印刷アリタルカ爲メ誹譏セラレタリトスルモノハ之ヲ普通裁判所ニ訴フルノ權理ト其手續トヲ定メタリ

右兩件ノ判示シタル法律アルハ立法院カ其大權ニ屬スル職務ヲ行フニ當テハ其全院若シクハ一人タリトモ其議員ニ障害ヲ加ヘラル、モノトセハ公益ヲ害スルコト少ナカラストスルニ出テタルモノナリ

又議院カ其大權ニ屬スル職權ヲ行フニ就テハ事ノ取調ヲナスニ必要ナル報告ヲ受ケ若シクハ證人ヲ請求スルハ必要ノコトナルヲ以テ若シ其命ヲ奉セサルモノ

アレハ令狀ニ依リ之ヲ監禁スルノ特權議院ニ存スルモノトス此點ニ就テハ
 〆るー對シヤ〆(Bradlaugh v. Gossett, 12, L. R. Q. B. D. 271) 〆るー對シヤ〆(Clarke v. Bradlaugh, 7, L. R. Q. B. D. 38) 〆參照ス
 右ノ判決諸例ニ於テ判事ノ説明シタル處相抵觸スルカ如キノ感ナキニアラサレトモ要スルニ相抵觸スル處アルニアラス其判決シタル問題ハ第一こんもんろー
 裁判所ハ其審判スル事件ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ議院ノ特權ノ如何ヲ判定スルヲ得第二衆議院ハ其決議ノミヲ以テ自カラ新特權ヲ作爲スルヲ得第三議院ノ命令ニシテ特權外ニ涉ルモノヲ執行シタルモノハ法律上ノ責任ヲ負ハシメラ
 ル、コトアルヘシトノコトヲ以テ之ニ答フルヲ得ヘシ而シテ右第三ノ個條ニ附言ス可キハ若シ其事柄タル議院ノ特權中ナル議院内ノ規立若シクハ手續ニ關スルモノナルトキハ普通裁判所ハ之ヲ穿鑿スルコトナキモノトストノ事ヲ以テス
 右ノ通り英吉利憲法ノ定ムル處斯ノ如シ要スルニ凡ソ人社會ノ一人トシテ各君主ニ服従スルノ責任アリ而シテ其責任タル定リナク君主ノ命シタルニアラス英

吉利法律ノ規畫シタルモノナリ君主ハ之ニ對シ人民タルノ特權トシテ身体ノ自由財產ノ所有及限リナシ納稅服役等ノ責任ヲ負擔セシムル事ナキノ權理ヲ附與ス而シテ其斯ノ權理ノ何タルモ漫リニ君主ノ増減シ得ヘキモノニアラス又法律ノ規畫スル所ナリトス又行政部ニ對シテハ其職務ヲ行フニ不便ナカラシメ其保護ヲ受クルニ安全ナラシメンカ爲メ人各行政部ニ相當ノ敬禮ヲ盡シ分限ヲ守ルノ責任アリ

又立法議院ハ上下ノ兩院アリテ各其特權ヲ主張シ相互及人民ニ對シ其意ヲ逞セントスルカ如キ過アル傾向ナキニアラサレトモ古來ヨリ雙方相不便ナカラシメシカ爲メ之ヲ保護シ若シハ之ヲ制限シ君主ト共ニ輔車相補ケテ立法ノ事ヲ掌トリ一私人ニシテ議院ノ特權ノ爲メ非常ナル害ヲ被ラントスル場合ニ於テハ自カラ之ヲ制限シ法律ハ之ニ對スルノ保護ヲ設ケタリ

英吉利憲法ノ發達ヲ案スルニ三段ノ沿革ヲ經過シタルモノニシテ其第一ハ君主ト封建諸王ノ間ニ權力ヲ爭ヒ第二段ニハ君主ト衆民ヲ代表スル衆議院ノ間ニ之ヲ爭ヒ第三段ニ君王ト中等以上ノ人民間ニ之ヲ爭フタリ而シテ第一第二ノ爭ハ

之ヲ腕力ニ訴ヘ第三ハ之ヲ輿論ニ委テタリ今ヤ其第四段ノ發達ニ入ラントスルモノニシテ八百年以來今日ニ至ルマテ右ノ種々ナル英吉利社會ノ諸部カ戰フテ止マス漸時各部ノ權理ヲ規畫創設シ漸ク將サニ備ハルノ機關ヲ備ヘタルカ如シ此機關能ク其用ヲ達ス可キヤ否古往ヲ回顧シ今來ヲ想像シテ考フル時ハ其發達ノ次第ハ他ノ後進セントスル國家ノ龜鑑ヲラサルハナシ我講義ニ於テ説明シタル判決諸例ハ千六百年代以來ノ事ナルカ其記録ニ依リ之ヲ案スルニ英吉利憲法ノ發達容易ナラス八百年間ノ苦心ハ僅ニ三百年以來ニ現出シタルノ結果ヲ生シタルカ如シ此等ノ判決例ヲ生スルニ至レル君主若シクハ掌權者其權力ヲ專ニセントスルニ出テ是レ或ハ我國今日ノ形勢ヨリスルトキハ未タ我レニ及ハサルモノナリシカ如キモ其實果シテ然ルヤ否我日本裁判權ハ當時ノ英吉利裁判權程貴重セラレ裁判官ハ獨立ノ見識ヲ有シ若シハ之ヲ有セサル可カラサルモノナルヲ知リ時ニ或ハ理ヲ誣テ爲メニ裁判シタルカ如キ過ナキニアラサリシモ之カ理ヲ飾ルニ至テハ之ヲ潤色シ少ナクモ外見以テ一應ノ道理タル裁判ヲ爲セル迄發達シタル事蹟アル我國能ク其上ニ出ツルノ現狀ナルヤ否未タ之ヲ知ラス之ニ徴シ

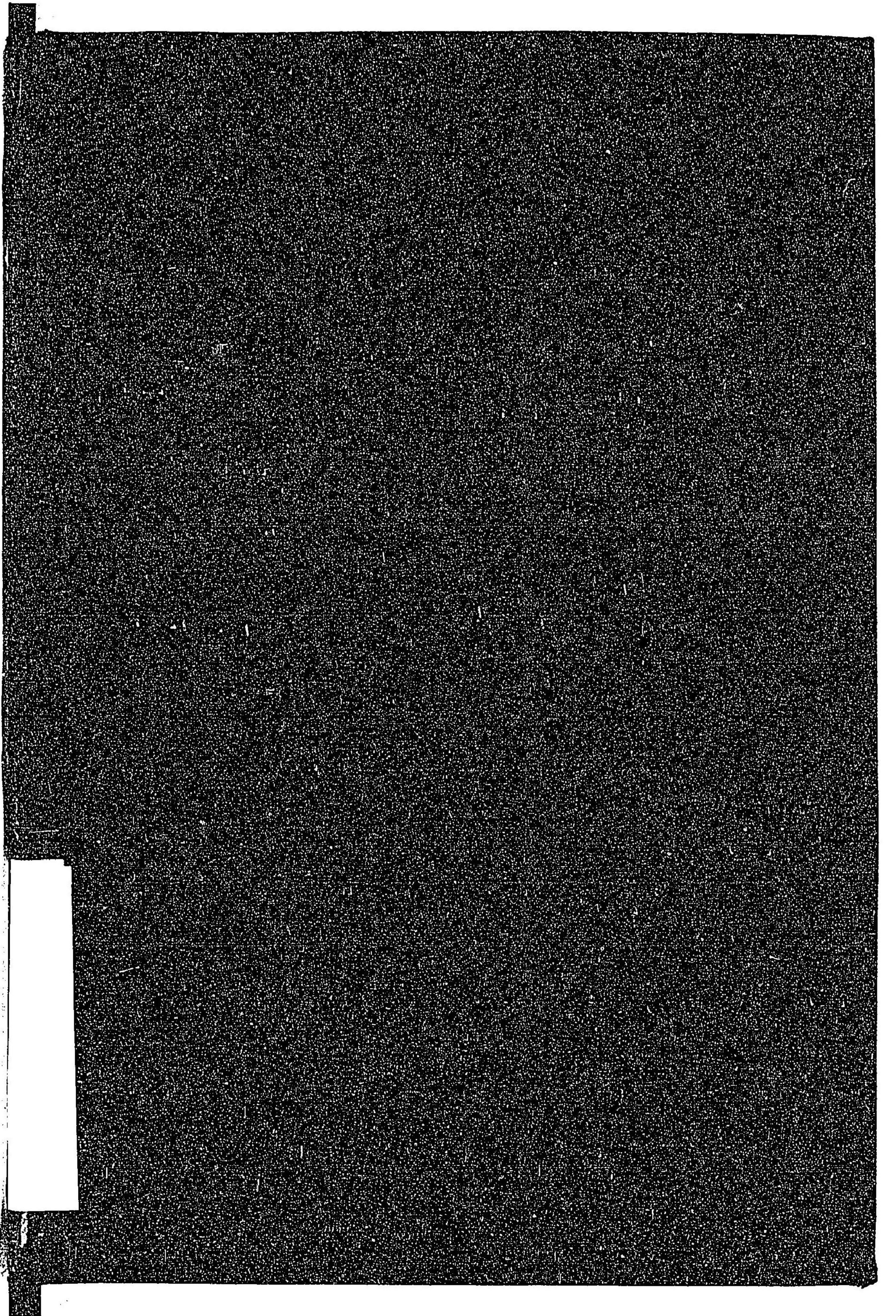
テ考フルモ若シ英和兩國發達ノ年度ヲ對照シ我彼レニ後ル、コト二百年ノ上ニ
アリト説クモノアルモ決シテ事ヲ誣ヘタルモノト云フヘカラサルニ似タリ世ノ
我國民發達ノ沿革ヲ詳カニセス實地ノ須要ヲ見スシテ遠ク海外ノ法律ヲ移シ來
リ以テ文明ノ實ヲ舉ゲタル者トシテ誇ラントスルノ人能ク之ヲ論破シ得ルヤ否

英國憲法判決例結尾

明治廿年十一月十八日合本記入

17

14
288



14

258

031417-000-2

14-258

英吉利憲法判決例

增島 六一郎/述

M22?

BBE-0002



